

特集

- I 筑波大学のグローバル化戦略
- II 茗溪会地方組織の活性化を目指して
- III 筑波大学と茗溪会との連携強化について

目次

- グラビア …… 01～02
- 特集I 筑波大学のグローバル化戦略 …… 03～09
- 特集II 茗溪会地方組織の活性化を目指して …… 10～13
- 代議員選挙公示 …… 13
- 特集III 筑波大学と茗溪会との連携強化について …… 14～16
- 平成25年追悼のつどい …… 17
- 公開講座 地名と人名から探る英語圏の文化
藤原保明 …… 18～19
- 茗溪学園だより …… 20
- 茗溪フェロー 協力者芳名録 …… 21
- 平成25年度茗溪会支部組織表 …… 22
- 桐の葉のつどい …… 23
- 追悼録 …… 24
- 平成25年度 筑波大学附属図書館特別展 …… 24
- 本部だより・編集後記 …… 25

茗溪



秋

2013

平成25年

no.1079



太陽と花と蜜蜂が織りなす代表的健康食品

● 蜂蜜・ローヤルゼリー・プロポリス・花粉 ●

品名	容量	税込特価	参考説明
アカシア 純粋はちみつ (ハンガリー産)	1kg ポリ	¥ 2,100	「ハンガリー産アカシアはちみつ」は花の香りが高く、まろやかな風味が特徴です。果糖が多いので長期に保存してもほとんど結晶しません。
	2kg ポリ	¥ 3,900	
	7.2kg ポリ	¥14,000	
ヴァイタル48 (生ローヤルゼリー)	40g	¥ 6,000	ヴァイタル48 (生) は栄養豊富で新鮮な生ローヤルゼリーをそのまま瓶詰めしました。無添加で生ものですので、冷蔵庫で保管してください。
	100g	¥12,900	
ゴールド200 (粒状ローヤルゼリー)	100粒	¥ 5,000	ゴールド200は1粒に生ローヤルゼリー換算200mgを含有しております。ローヤルゼリーには、豊富な栄養成分がバランスよく含まれています。
	300粒	¥11,900	
ビーポリス (ローヤルゼリー+プロポリス)	25g (約100粒)	¥ 7,500	ローヤルゼリーを配合した、粒状のプロポリスで小社が独自に開発しました。(特許第1736694号)
ユーカリーナ (粒状プロポリス)	75g (約300粒)	¥ 6,000	樹脂や蜜ろう、花粉の他に十種類の成分が含まれています。その中でもフラボノイドが注目されています。蜂精は、香気成分が強いため、最初は抵抗感があります。使い始めは、ユーカリーナをお勧めします。
蜂精 (プロポリスエキス)	30ml	¥10,000	
アピスポーレン (花粉)	100g	¥ 3,000	花粉は生命を育むのに必要な栄養素をバランスよく含む完全食品で、蜂蜜・ローヤルゼリーの成分は全て花粉に由来します。

商品仕様

アカシア 純粋はちみつ
(ハンガリー産:1kg)



ヴァイタル48
(生ローヤルゼリー)



ユーカリーナ
(75g=約300粒)



食用花粉



※5,000円未満ご注文は実費運賃をお願いします。



日本養蜂のバイオニア

埼玉養蜂株式会社

健康友の会

〒364-0001

埼玉県北本市深井4-23

TEL: 0120-924-3838

FAX: 048-543-5269

力と自信がつく教育で 「考え、行動する人材」を育成します。

KAIT

神奈川工科大学
KANAGAWA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

〒243-0292 神奈川県厚木市下荻野1030
TEL.046-291-3002 URL: <http://www.kait.jp/>

理事長 中部 謙一郎

理事 河野 隆二(S47農)

顧問 清水 進一(S43理 数) (神奈川茗溪会 会長)

監査室 矢野 正人(S53院修 農) (同 事務局長)

科学的なセンスをもつ

管理栄養士を養成

応用バイオ科学部

栄養生命科学科

〔管理栄養士養成課程〕

工学部

機械工学科(航空宇宙学専攻含む)
電気電子情報工学科
応用化学科

創造工学部

自動車システム開発工学科
ロボット・メカトロニクス学科
ホームエレクトロニクス開発学科

応用バイオ科学部

応用バイオ科学科
栄養生命科学科
〔管理栄養士養成課程〕

情報学部

情報工学科
情報ネットワーク・コミュニケーション学科
情報メディア学科

追悼のつどい P.17 参照



助成金を授与された学生の団体の代表・個人

茗溪会から筑波大学への 支援事業



学生活動への助成金の授与

【交付先一覧】

学生活動への助成金授与	3,000,000 円
卒業式への助成（祝賀会）	3,000,000 円
ホームカミングデーへの助成	500,000 円
茗溪・筑波グランドフェスティバルへの助成	500,000 円
芸術賞	300,000 円
茗溪賞	(申請数による)
合計	7,300,000 円 + a

平成 25 年度茗溪会学生活動支援事業採択団体一覧

- 【宇宙工学研究会】
ハイブリットロケットエンジンの開発・液体ロケットエンジンの開発
- 【応援部 WINS】
体育会所属団体の応援活動、スポーツデーなど学内行事の広報活動
- 【体育会漕艇部】 第 39 回筑波レガッタ
- 【ダンス部】 第 51 回筑波大学ダンス部公演
- 【ライフセービング部】 大竹海岸の海水浴シーズン中の監視救助活動
- 【つくばろぼっとサークル】
ロボットコンテスト参加に向けた活動及び地域貢献
- 【学び場さくら塾】 学び場さくら塾
- 【筑波大学宇宙技術プロジェクト】
ハイブリットロケット及び小型模擬衛星の開発
- 【筑波学生文芸賞運営委員会】 第六回筑波学生文芸賞
- 【平成 25 年度筑波大学学園祭実行委員会】 第 39 回筑波大学学園祭「雙峰祭」
- 【ふるさとつくば ゆいまつり 実行委員会】 第 3 回ふるさとつくばゆいまつり
- 【筑波大学大学院野球コーチング論研究室】 星空野球教室
- 【起死回生～自殺予防のための啓発活動～】
「SAVING10,000～自殺者 1 万人を救う戦い～」上映会 in 筑波大学
- 【人間総合科学研究科 黒野寛馬（個人）】
アジアロープスキッピング選手権大会及び世界ロープスキッピング選手権大会出場

公開講座



「地名と人名から探る
英語圏の文化」

講師 藤原保明氏

P.18～19参照





筑波大学の グローバル戦略を 語る(座談会)

P.3 ~ 9 参照



グローバル・コモンズ開所式

グローバル・コモンズとは、国際性の日常化を実現させる場所ということで、大学内に専用のスペースを設け、今年9月26日(木)に開所式を行いました。



筑波大学と茗溪会との 連携強化について

P.14 ~ 16 参照

2020年 オリンピック・パラリンピック 東京で開催

2013年9月8日(日)ブエノスアイレスで開催されたオリンピック委員会 (IOC) 総会で2020年オリンピック開催都市が東京に決まりました(候補都市は他にスペインのマドリード、トルコのイスタンブールが挙げられていた)。また、競技種目のうち、廃止候補に上がっていたレスリング、野球・ソフトボール、スカッシュのうち、レスリングが継続種目とされました。

〈季刊誌・茗溪 2012年秋号特集・座談会記事から引用〉
東京からは、開催準備とともに、これから世界に向かってどんなメッセージを発していったら良いのか —

- ・わが国らしい理念を作っていくことが必要。(山口)
- ・紛争が起きているが、相手を尊敬し理解しあえるような人間を、スポーツを通じて育てて行くように、日本から発進したい。(阿江)
- ・3・11以後の日本が、いかに復興したかを、世界中の人に見てもらいたい。(江田)

グローバル時代の大学はどうあるべきか 筑波大学のグローバル化戦略

世界は、社会・経済・文化などあらゆる分野でのグローバル化が進み、わが国でも国際的に活躍できる人材の育成とそのための体制づくりが喫緊の課題となっています。

そのため、各大学はいま競ってグローバル化に向けた取り組みを始めていますが、筑波大学は建学の時から「開かれた大学」として、国内外の教育・研究機関との連携を深め、「世界と共生する大学」をめざして、さまざま

な挑戦を続けてきました。

そこで今回の特集は、筑波大学の永田恭介学長、清水一彦副学長（学生担当）、阿江通良副学長（教育担当）、ベントン副学長（国際担当）の4人の方々に、筑波大学の多彩なグローバル化戦略を紹介していただきながら、「グローバル時代の大学はどうあるべきか」について話し合っていました。

話し合いの進行役は清水副学長をお願いいたしました。

いまなぜ大学のグローバル化が求められるのか

清水 文部科学省の公式文書で「グローバル化」という言葉が出てくるのは21世紀に入ってからですから、ごく最近のことですね。それまでは「国際化」という言葉が日常的に使われていましたが、現在は「グローバル化」という言葉の方が定着し、中央教育審議会の大学分科会でも、「グローバル社会における大学の役割」が検討され、大学のグローバル化のためのさまざまな施策が打ち出されています。こうした動きの背景には、

- 一．世界の経済がグローバル化して、わが国もそれへの対応が必要になってきたこと
 - 二．過去に蓄積された知識や技術では対処できないほど地球規模の課題が出てきて、それに対応するために科学技術の高度化が求められるようになってきたこと
 - 三．20世紀は戦争の世紀と言われましたが、21世紀になっても、世界の各地では紛争が続いていて、紛争のない世界を築いていくための国際理解教育の重要性が高まってきていること
- などがあるだろうと思います。
- そして、こうした世界の大きな潮流が、大学のグローバル化を求める動きになってきているのです。
- そこで今日は、「グローバル時代のわが国の大学のあり方」や「筑波大学のグローバル化の方向」について話し合っていきたいと思っています。

日本の大学に求められていること

ベントン いま日本で求められているのは、世界で闘える人材を育てることですね。でも、いまの日本は、高校で一生懸命入試の勉強をして大学に入り、狭い分野の勉強をするというのが一般的ですから、18歳でほぼ進路が決まってしまう。だから多くの学生は、あま

り外に目を向けようとしないうし、視野を広げようとしていないというのが私の日本の学生に対する印象です。日本の学生は、これからもっと多様な環境の中に入っている、グローバルに活躍できる力を育てていくことが必要になってきているのではないのでしょうか。

清水 日本の大学にはそういう多様な環境がないということでしょうか。

ベントン 日本の多くの大学は、一つの学部に入っている学部のカリキュラムに従って勉強し卒業していくというのが一般的ですから、リベラルアーツを学んだり、幅広い教養教育に触れたりするチャンスが少ない。そこが日本の大学と外国の大学との大きな違いではないでしょうか。

教育のグローバル化は地球人の視点から

永田 日本人は、インタービレッジとかインターシティとかインターナショナルという考え方がきわめて弱く、教育でもインター○○の前に、ビレッジやシティのところで終わってしまっています。

ヨーロッパに行くときインターシティという列車が国境を越えて走っているように、境界を越えることはごく普通のことですが、日本人はいつも、日本という枠の中でのことを考えるのが当たり前になっている。学問分野ですらなかなかインターナショナルにはならないのです。

わが国の大学が本当の意味でのグローバル化をめざすためには、インタービレッジという意識も、インターシティという意識も、そしてインターナショナルという意識をも越えていく必要があると考えています。

ベントン グローバル社会というのはものすごく変化の激しい社会で、あらゆるところから、いろんな企業やパートナーが攻めてきます。その時にフレキシブルで幅広い視野を持っていないと、勝てない世界なんです。ヨーロッパの場合は、日常がインターナショナルですから、グローバル社会になってもそれほど抵抗はないと思います。日本の場合は相当の意識改革が必要

ではないでしょうか。

永田 欧米はもともと狩猟民族ですから、他と相互の関係を持たないと生きていけない社会です。肉を主食とする人たちは、定住して育てる米を主食にはできませんから、肉を手に入れるためには境界を越えて交易をしなければなりません。そこに欧米社会とわが国との根本的な違いがあるのです。

清水 日本のような米文化の農耕民族の場合は、定住生活の基本でしたから、グローバル化を進めていく時にはどうしても意識改革が必要でしょうね。

阿江 日本は海に囲まれているという特性もあり、これまで日本という枠の中でさまざまな課題を解決することができました。しかしグローバル社会になるとそれはいかなくなるだろうと思います。

私が関係しているスポーツの世界はもともとインターナショナルでやっていますから、国際化あるいはグローバル化は、それが当たり前だと受け止めています。でも、日本の学生の場合はスポーツの世界でも大学ごとに小さく固まってしまうという弱点があることも事実です。

永田 冒頭で清水さんが説明されたように、いま、政府や産業界のニーズに対応する形で教育のグローバル化やグローバル人材の育成が求められています。それは私の考えるグローバル化とは少し違うのではないかと思います。

いまは、あらゆる面で世界基準がグローバル化している、ものごとを解決するのが一国ではすまないような段階になっている——それがニーズになっています。でも、そういうニーズに 대응することばかりを考えていると、本当のグローバル化とは何かということを忘れてしまうのではないかと、私を心配しているのです。

もちろん私は、世界的な課題に対して皆で何とかしましょうということに反対しているわけではありません。

経済の問題でも、空気汚染の問題でも、化石燃料が



学長 永田 恭介氏

【略歴】 1976 東京大学薬学部卒業
1981 東京大学薬学研究科博士課程修了
1981 薬学博士
専門は分子生物学
国立大学協会理事

少なくとも隣国に飛び火するというような問題でも、いろんなことに対して世界基準がつけられて、それがニーズになっていくのですから。

しかし、例えば政府が「経済のグローバル化を進めたい。そのための人材を育成したい」というような方針を打ち出して、それに対応して教育のグローバル化を図るということであるならば私は違うと思うのです。だって、その施策は日本のためだけの施策でしょう。日本のためだけでなく、地球上が同じスタンスで経済を高めていこうというのなら私は賛成します。でも、経済の問題はどうしたって各国のエゴが入ってきますから簡単にはグローバルにはならないと思うのです。

私は、グローバル化の問題を考える時に大切なのは、インターネットのような視点を忘れてはならないことだと考えています。

例えば、地球に宇宙人がやってきた時のことを想像してみればすぐわかるように、宇宙人の前では、地球にいる私たちは国が違って皆地球人なんです。

インターネットという視点に立つてみると、当然のことですが物事を考える単位が変わってきます。国と国という意識で考えている間は、まだインター

ナショナルにとどまってしまう状態ですから、それを越えないと本当のグローバルにはならないのではないのでしょうか。

日本の大学のめざすグローバル化の方向

清水 先ほどベントンさんは外国の大学と日本の大学は教育システムが異なっていて、グローバル化を考える時、そこに課題があるという話をされました。

では、日本の大学のグローバル化はどのような方向をめざしたらいいかということですが、私は「日本の大学のグローバル化は外国の大学の単なる模倣であってはならない。日本の社会、文化、歴史を基盤にしたグローバル化でなければならぬ」と考えています。

永田 地球全体を一つの国のように考えると、日本人は日本人の役割があるのです。それをアメリカ人のグローバルイニシアティブと私たちのグローバルイニシアティブを同じにしたいとは思いません。

全体のコンセプトは当然、「地球全体のために」というようになりませんが、日本の大学には日本の大学のグローバル化のやり方があっていいと思います。

日本の大学で卒業に必要な単位は120単位プラス4単位となっていますが、この4単位は体育なんです。これは日本の精神風土から生まれたもので、こういう考え方は、日本の大学のグローバル化を構想する時に大事にしたいと思っています。

ベントン 先ほど日本の大学の課題のお話をしましたが、もちろん日本の大学のいいところもあります。それは、早いうちから指導教員がついて、学生を育てる体制があることです。アメリカの大学では学部生は論文を書かなくてもいいというところがほとんどですが、日本の大学では学部レベルでも指導教員の指導のもとで、論文を書きます。このシステムは素晴らしいことだと思います。

清水 日本の大学にそういう体制ができてくるのは、日本が農耕民族であるということからくる「共同生活」とか「和の文化」というものが反映しているだろうと

思います。そして、日本人というのは物事を吸収する

能力の高い民族で、そこから新しいものを作り上げていくということにも長けていますから、そういう民族の特性が、指導教員のもとで若い学生を育てていくという体制にもつながっているのではないかと思います。

永田 私はそういう日本人のマインドを崩す必要は全くないと思っています。もつと世界にアピールして、「日本に学んでみるよ」と言ってもいいわけです。でも、文部科学省とグローバル化の話をしている、日本が持っているものを世界に出していくという姿勢はあまり感じられない。日本人や日本政府が世界に向けてグローバル化を語る時には、そういう日本の文化や日本の良さを、もつと語っていくべきではないかと思えます。

清水 そういう意味では、外からのグローバル化ではなく、内からのグローバル化が重要なポイントになってきますね。

ベントン 確かに、日本はその辺のアピールができていないように思います。日本の素晴らしい文化をアピールできて、外国人とウィンウィンの関係をつくれるような人材がいま求められているのではないのでしょうか。

筑波大学はグローバル化の トップランナー

清水 筑波大学は、いまから40年前に、1960年代の欧米の大学の最先端システムを導入して開学し、現在は「教育・研究の拠点大学」として、さまざまな改革に取り組んでいます。同時に、社会のグローバル化に対応した教育・研究システムの改革も大きなテーマになってきています。そこで、筑波大学はどのような改革を進めているかという話に移りたいと思います。実は筑波大学の前身である東京高等師範学校に現在のグローバル時代の先駆というべき人物がいたという話をしておかなければならないと思います。その人物とは、近年筑波大学の精神的支柱として重要視されてい

る嘉納治五郎先生です。

グローバル時代の先駆者 嘉納治五郎

阿江 嘉納先生は柔道で有名ですが、実はそれ以上に、優れた教育者であり、グローバル人であった人です。

本学では、JAPIC（日本プロジェクト産業協議会）において講座を開いてもらっていますが、グローバルというテーマの時に、講師の方が嘉納先生の写真を見せながら「この方こそ最大のグローバル人間だ」という話をされ、学生たちにも大きな感動を与えていました。

永田 嘉納先生のおやりになられたこと、おっしゃったことをみると、「日本を国際化しましょう」というようなことを言っているのではなく、「世界をどうしようか」と考えていることがわかります。

阿江 いま日本の柔道は勝ったり負けたりしていますが、あれが嘉納先生のねらっていたことではないかと思えます。日本がいつも勝つのだたらにもグローバル化する意味はない。「世界中の人が柔道をやる」それが嘉納先生の願いだったのではないのでしょうか。そして、嘉納先生は100年も前に、8,000人も

留学生を招いて、多くの学者や研究者、政治家、教育者を育てています。これは日本だけが良くなるのではなく、アジア全体が良くなるなければいけない、そういう心があつたからだと思います。

嘉納先生の「自他共栄」という言葉はウィンウィンのことなんです。そして、「精力善用」という言葉も、自分が高めたものを世界中に広めていこうという思想を表していますが、嘉納先生はそういう精神の持ち主であつたのです。

私は、わが国では、嘉納先生と新渡戸稲造の二人が本物のグローバル人間であつたと思つています。

永田 私も、嘉納先生と新渡戸稲造だけは、国籍とか国境にとらわれない人だつたと思います。

ただ、嘉納先生の「自他共栄」という言葉については私は阿江さんとは違う理解をしています。つまり、嘉納先生にとっては自も他もなく、「自分のことだけでなく、自分を取り囲むすべてを包含して生きていきなさいよ」ということが言いたかつたのではないかと受け止めているのです。

清水 嘉納先生はアジアで初めてのIOC委員で、日本が極東と言われた時代に、世界を駆け回つて日本にオリンピックを招聘した人ですが、残念なことに嘉納先生は帰国途中の船の中で帰らぬ人となり、オリンピックも戦争のために中止になってしまいました。

でも、戦後の1964年に東京オリンピックを開催できたということは、嘉納先生のそういう努力があつて、はじめて実現できたことではないかと思つています。

永田 嘉納先生は現代社会が求めているグローバル化のシンボルと言つてもいい巨人です。外国にも嘉納先生の思想や生き方を超えている人はそういないだろうと思つています。

『嘉納治五郎の肖像彫刻の設置』
大塚キャンパスにある朝倉文夫さんが製作した肖像彫刻と同じものが2010年に筑波キャンパスにも設置された



副学長・理事(学生担当) 清水一彦氏

【略歴】 1974 東京教育大学教育学部卒業
1980 筑波大学教育学研究科博士課程単位取得退学
1997 博士(教育学)
専門は教育制度学
日本教育学会理事

グローバル教育院の設立

清水 このように、グローバル人間として活躍した嘉納先生の精神を受け継いでいる筑波大学は、いま、さまざまなグローバル戦略を打ち出しています。その一つが「グローバル教育院」です。

このグローバル教育院というのは、学士課程や大学院において、将来グローバルリーダーとして活躍できるような人材を育成していくための組織で、昨年度からスタートいたしました。

そしてこのグローバル教育院が従来の教育システムと一番違うところは、既存の教育組織を分野横断的につらねて、新しい学位プログラムを運営する組織だということなのです。

現在は、大学院レベルの「ヘヒューマンバイオロジー学位プログラム」しかありませんが、来年度に向けて別のプログラムを検討しています。学士課程でのプログラムをスタートさせる準備もしています。

阿江 では、昨年度から始まっている「ヘヒューマンバイオロジー学位プログラム」とはどういうものなのかについては私から説明いたしましょう。

これまでの大学院は、それぞれの専攻に所属して勉強し研究するという教育・研究システムでしたが、この学位プログラムはヒューマンバイオロジーを学びたいという学生がいろんな専攻から集まってきて、医学、生命科学、計算科学、物質科学など広い分野にまたがって勉強し研究して、学位をとるというシステムです。

だからこの学位プログラムを成功させるためには、世界中から優秀な先生や優秀な学生を集めて、グローバルに国の境も学問の境もなく課題に取り組む体制をつくる必要があります。

永田 グローバル教育院の二年間の成果をみると、3分の2は成功していると思う。一つは、グローバル教育院の目的である「分野を超えて、多くの専門分野の人間が集まる」ということはうまくいっている。二つ目の「このプログラムには、外国人であるとか、企業の

人であるとか、政治に関わっている人であるとか、国や人種や職種を超えて多様な学ぶ仲間が集まってきて学び研究する」ということもうまくいっている。

でも、本当にグローバルな観点で見た時に、「物とか生命とか歴史とかを全部超えたところ」で『人の生物学』になっているかというところ、そこはまだこれからの課題かなとみています。

グローバル時代の人材育成

清水 私はグローバル社会においては教養教育というカリベラルアーツの修得がもっと強調されなければならぬと思います。グローバル社会では、幅広い視野と知識を持つことが不可欠だからです。

永田 幅広い視野を持つ人材を育てることについては、外国の大学のシステムの話に戻るかもしれないけれど、アメリカでは4年生までは生物学とかエコロジーを学んでいた人が大学院では全く別の分野に行くということが普通に行われている。それはペントンさんの経歴をみてもよくわかる。

阿江 日本の大学は専門性が高いから、ある専門分野の勉強をしてきた人が途中から別の分野の勉強をしようと思ってもなかなか入れない。

でもこれからは、例えば芸術専攻で入ってきた人が数学の研究者になるというような柔軟なシステムをつくることも必要でしょうね。

永田 幅広い教養、リベラルアーツを学んで、その後に専門の勉強に進むということでは、戦前の旧制高等学校がそういう役割を果たしていたのではないですか。

清水 ご指摘のように、日本の場合は旧制の高等学校がリベラルアーツを学ぶところでした。アメリカの大学では、リベラルアーツというのは3つの柱から成り立っていて、一つはゼネラルエデュケーション↓我々が大学時代に学んだ一般教育、二つ目がアカデミックス↓これは外国語教育や情報処理の教育、三つ目が



メジャーです。これを「専門」と訳してしまつたところに、いま皆さんが指摘されたような日本の大学の教育の課題が生まれているのです。『専門』というのは、アメリカでは大学院のレベルのことを言うのであって、メジャーというのは「専門基礎」のような共通性のある勉強のことをいう言葉なのです。

永田 リベラルアーツの起源は古代ギリシャまで遡るといいますが、文学、法学、論理学、修辭学、幾何学、教論、天文学、音楽の7つの科目を、人間が教養を身につけるための学問として位置づけています。この学問分野をみるとリベラルアーツというのはまさに教養

教育の基本であり、グローバル時代にあっても大事にしなければならぬ考え方ではないかと思えます。

阿江 リベラルアーツのアーツというのは技法です。それを日本では教養と訳してしまったために、「知」のことばかりが重視され、物の見方や考え方を教えてこなかったような気がします。

筑波大学では、そのところを重視した教育をめざしたいと考えています。

ベントン 日本の大学の授業は、先生が講義をするという形が多い。だから、学生自身が、問題がどこにあるかを考え、仲間とディベートしたりプロジェクトを立ち上げて、問題を解決していくというような点が弱いのではないかと思います。

永田 日本の専門教育のレベルは高いので、改革するとしたらリベラルアーツの考え方も取り入れながら、教養教育を再構築していくことではないでしょうか。

清水 教育学の先駆者にペスタロッチという人がいますが、この人が、「人間は頭Headと胸Heartと手Handの3Hからなっている。頭Headは考える力、胸Heartは人を思いやる心、手Handは物を作る技術力である」と言っています。

ここから知識教育、道徳教育、技術教育が生まれてくるのですが、この考え方を援用すれば、リベラルアーツで求められるのは、「頭で考えるのではなく、心で考える技法」だといえるのではないのでしょうか。

永田 知は専門教育があるし、スキルはこれまで教えてこなかったのだからこれから教えていけばいいと思いますが、心の部分はなかなか難しい。なぜ難しいかというと、教えようとするから難しいのです。

いま私たちは、グローバル時代の人材をどう育てるかという話をしていますので、そのことに関連して、一つの例え話をしたいと思います。

それは、宇宙人と対決したある日「お前が地球のことをどのように語れるかインタビューして、その答によって地球を滅ぼすかどうかを決めるよ」と言われた時に、どういふ答えが出るかという話なのです。

宇宙人が問うているのは、物質時代の地球から生命

が誕生し、人間の歴史が始まり、戦争や革命や技術革新やいろんなことがあったこの地球をすべて丸ごと愛せるかどうかということなのです。

この問いかけに対して、「国を超え、民族を超え、異文化も全部理解して、この地球を愛している」ということを宇宙人の前で答えることができれば、その人は本物のグローバル人間で、宇宙人は「君たちは、成熟した宇宙の一員だ」と言って、帰って行くだろうと思います。

嘉納先生はそれができた人だと思う。だから私は嘉納先生のような人が本物のグローバル人間だと思うのです。

グローバル・コモンスの設立

清水 今年4月、筑波大学はグローバル人材の育成を目的として、〈グローバル・コモンス機構〉を発足させました。この機構は国際性の日常化をキャッチフレーズにしていますが、では具体的にはどんなことをしているのか、担当のベントンさんに説明してもらおうと思います。

ベントン グローバル・コモンスというのは〈国際性の

日常化〉を実現するための場所なんです。グローバルな力を身につけるためには、グローバル社会を経験する必要があります。

だから、グローバル・コモンスでは、「日本人学生を海外に留学させるための支援」「日本人学生と海外からの留学生と一緒にイベントを開催する場の提供」、多くの学生が国際的なさまざまな経験ができるようなサポート」など、多彩な活動をしています。

そしてこのグローバル・コモンスの組織は、「スチューデント・コモンス」(学生のための組織)「ファカルティ・コモンス」(教員のための組織)「アドミニストラータ・コモンス」(職員のための組織)の三つの組織から成り立っていて、学生だけでなく、筑波大学に所属する教員や職員のグローバル化も進めています。

グローバル・コモンスの専用のスペースも九月中にはできますので、これからはもっと活発な活動が展開できるだろうと思っています。

永田 いままでも国際部という組織で学生の留学の支援などをしてきましたが、この国際部というのはどちらかというと管理側から考えた統治組織でした。これに対してグローバル・コモンスというのはユーザー側から考えたサービス組織で、いままでのように、管理側が「こうしなさい」と指示するのではなく、ユーザーから「これをやりたいのだがどうしたら手伝わってもらえますか」と言ってきた時に、ユーザーの求めに応じて支援をしていくというユーザー中心の組織なのです。

英語だけで学位のつなげプログラム

清水 グローバル・コモンスとは別に、筑波大学では国際化を進めるために、4年前から英語だけで学位のとれるコース『英語プログラム』を、大学院の課程では24、学士課程では3設けています。このプログラムにより、海外の学生が筑波大学に留学しやすくなっていますし、この英語プログラムには日本人も参加できるようにしています。



副学長(国際担当) Caroline F. Benton氏

【略歴】 1994 筑波大学経営・政策科学研究科修士課程修了
1997 東京工業大学理工学研究科博士課程修了
1997 博士(学術)
専門はビジネスとイノベーション戦略
つくば市総合計画審議会委員

また、この英語プログラムとは別に筑波大学では、学士課程でも大学院の課程でも英語で授業をする先生が増えてきていて、キャンパス全体で国際性が日常化してきているように思われます

課題解決型の専門教育

清水 すでに見てきたように、グローバル時代の人材育成のためには、リベラルアーツを学ぶことが大事です。それだけではなく、現代社会が直面する課題に対応することのできる課題解決型の専門教育も必要になってきています。

加えて、信用力のような社会人としての基礎力の育成も必要です。

そして、そういう力は、座学や実験室の中だけの授業では身につけることはできません。

でも、筑波大学の場合は、学生の87%が課外活動とかサークル活動に取り組んでいて、コミュニケーション能力とか交渉力とか協調性を身につけています。

だから、私は、授業外の活動も「大学の学び」としてとらえていかなければならないと考えています。

そういう意味では、教員の意識変革が求められるのではないのでしょうか。

永田 課外活動やサークル活動は、アプロプリエイト・テクノロジー（適正技術）でわざわざ外国に井戸掘りに行くのと何ら変わらない。

求められているのは、課題解決の能力であり、コミュニケーション能力なので、課外活動をもっと重視してもいいのではないのでしょうか。

そのためには、この際、日本の先生が大好きな研究室閉じこもり型の教育をやめて、学士課程の間はいろんな経験をさせる教育をもっと重視していかなければならないと考えています。

清水 先生方も、学生を教室に閉じ込めて時間をかけて教えることが学生を育てることだと思いませんか、徒弟的に、「先生の言うことを覚える、習う」ということに重きを置いている先生が多い。そこを変えていか



副学長・理事(教育担当) 阿江 通良氏

【略歴】 1973 東京教育大学体育学部卒業
1982 筑波大学体育科学研究科博士課程修了
1982 教育学博士
専門はスポーツバイオメカニクス
日本体育学会会長

グローバル戦略を 推進していくための課題

グローバル時代の入試制度

清水 これまで、グローバル時代にはどのような人材が求められているのか、そのために筑波大学はどのような施策を行う必要があるか、ということなどを話し合ってきましたが、では、このような筑波大学のグローバル戦略を推進していくためにはどんな課題があるかということについて話を進めていきたいと思えます。

阿江 一番の課題は入試制度です。グローバル時代のリーダーになれるような人材を育てるためには、入試制度の改革は避けて通れない課題です。そのため、筑波大学では、いま4つの観点から入試制度の改革を進め

ています。
一つ目は、自立性のある学生を採用し、その学生を育て上げていくシステムに変えていくことです。

筑波大学はいまも7色の入試を行っていて、多様な学生を入学させる努力をしています。その入試制度をもう少し工夫して、自立性のある学生をとりたいたいと思っています。

『7色の入試』

- 推薦入試
- AC入試
- 私費外国人留学生入試
- 編入学入試
- 一般入試
- 帰国生徒特別入試
- 国際科学オリンピック特別入試

二つ目は、グローバル化に対応できる入試改革です。国際バカロレア（IB）とかTOEFLとか、あるいは上智大学が中心になって開発しているTEAPと呼ばれる英語試験などをうまく導入して、将来的に自立してグローバルに活躍できるような学生を入学させることができるシステムをつくらうと考えています。

新しい入試では、極端なことを言うと、筑波大学が求めているような、自立性があり、やる気のある学生なら、最低限の能力さえあれば、入学させようということですから、学力的にも相当のばらつきがある学生が入学してきます。そういう学生に対しても基礎トレーニングをやって、卒業までにはグローバル時代に必要な人財として育てあげて送り出そうと考えているのです。

そのためには、そういう学生をしっかり受け止め、育てていくための体制や教育システムがなければなりません。そこで、三つ目と四つ目の改革では、そういう新しい入試制度をうまく運営していけるような制度や教育システムをつくりあげていこうとしているのです。

永田 私はバカロレアに関する国内の委員をしています。バカロレアの試験科目は、日本人の場合は、日本語、英語、数学、社会科学一科目、自然科学一科目、

芸術のほかディベートなどの課題があつて満点は48点。これは世界共通の試験ですから一定の点数が取れば世界中の希望する大学に入れる仕組みになっています。

そして最近私が考えていることは、このバカロレアというのはリベラルアーツとコンセプトがとても似ている、専門の学問を学ぶ前にやらなければならない勉強というのはこういうコンセプトの勉強なのではないかということなのです。そういう基本を学んだ学生は、専門に進んでもよく学びますし、大きく成長しています。

ベントン 私も同感です。自分のことを考えてみても3年前に習ったことなどあまり覚えていません。大切なのは幅広い視野と考える力です。若い時にそういう力を育ててほしいと思っています。

【国際バカロレア】国際的に認められている大学入学資格の一つ

グローバル時代の卒業生の進路

清水 これからの筑波大学は、自立性のある学生をとつて、グローバル社会に生きる人材に育て上げ、送り出すという話をしてきましたが、就職という現実問題に関しては、わが国の経済状況も影響し、厳しいものがあります。

永田 この前、政府の諮問委員会の席で、大企業の会長さんが、「大学でもっとグローバルにいろんなことを勉強させよ」と発言していたので、「企業の入社試験では何を見ているのか聞いたところ、「人物しか見ていない。成績も見えていない」というのです。この方の発言は矛盾しているように見えるが、どちらも正しいのだと思う。グローバル社会の企業は一定レベルの学力も求めるけれども、それだけではなく、先ほどの話にもあつたような課外活動やサークル活動で身につけたコミュニケーション能力とか交渉力とか調整能力とか、そういうものを求めているのだと思うのです。

筑波大学のへやどかり祭（宿舍祭）のリーダーをやつた学生は皆希望の企業に入っています。そして「や

どかり祭の委員をやつたことはとてもいい経験になつた」と言っていました。筑波大学の学生なら、普通に学問を修めていけば、あと必要なのは、課外活動やサークル活動に熱心に取り組んだとか、海外に出てグローバルなところでもまれたとか、そういう経験をするのが大切なんだろうと思います。

若狭会会員へのメッセージ

清水 筑波大学の歴史は40年ですが、前身校から数えると141年の歴史があり、入学した学生をとことん面倒を見て育てて世に送り出すという伝統があります。

グローバル社会になって、大学の教育システムが大きく変わっても、私たちはこのよき伝統を守り、グローバル時代のリーダーになれるような人材を育てていきたいと思っています。

永田 私たちは大学院の改革から始め、いまは学士課程を何とかしなければということを取り組んでいるところで、入試改革もその一環です。

そしてこの入試改革のねらいには高等学校を救いたいという思いもあります。

高校では、その年齢にふさわしい教育を行うことが必要です。もちろん、この年齢は知識もたくさん吸収できる時ですから勉強もしなければなりません。

しかし、お金持ちの子供がどれだけ有名な塾に行つたかが競争になつている入試を変えないと、高校本来の教育ができないというのが、いまのわが国の高校の実態です。だから、いまのような入試はもうやめたい入試を変えることにより、高校の教育もグローバル時代にふさわしい教育に変えていきたいのです。

そのためには、高校教育と大学教育の接続が課題になつてきます。そしてこういう課題を考える時に筑波大学がすばらしいのは、附属学校をもっていることです。大学と附属高校でいろいろ試してみても、それを全国の高校に広げていくことができるのです。

グローバル時代に生きる人材を育てていくためには、単に大学の入試を変えるだけでなく、大学が変わり、高校が変わり、そして高校教育と大学教育のスムーズな接続がどうしても必要です。同じことを小・中学教育から考えていかなければなりません。

この問題は、教育界のリーダーとして活躍している多くの同窓の皆さんにも一緒に考えてもらいたいと思つています。

清水 わが国の大学入試センター試験もいま見直しが始まるうとしています。グローバル時代を迎え、それぞれの大学の入試も変わつていくだろうと思います。その時、高校と大学の接続のあり方は避けて通れない大きなテーマになってきます。

グローバル時代のわが国の教育を変えていくためには学長が言われたように、入試改革だけでなく、高大接続のあり方についても抜本的な見直しが必要になるだろうと思います。

筑波大学は、この問題についても、同窓の皆さんの力も借りながら先導的な役割をはたしていきたいと思つています。

清水 今日、グローバル時代の教育のあり方についてさまざまな角度からお話をいただきました。話は尽きませんが、ここでひとまずおわりにしたいと思います。



茗溪会地方組織の活性化を目指して

《神奈川茗溪会》の取り組み

神奈川茗溪会会長 清水 進一

神奈川県は、平成24年度の総会で、「茗溪会神奈川支部」を改め「神奈川茗溪会」に改称する提案をし、認められました。

本部の一般社団法人化に伴う支部との関係を検討しながら、神奈川県としては、神奈川県の同窓生の積極的な交流を図り、かつ、他県では取り組んでいない神奈川独自の活動を推進していきたいという思いから「神奈川茗溪会」という呼称にしました。神奈川の活性化への取り組みは、私が会長になった平成20年度から始まりました。



事務局機能の充実

就任にあたって課題となっていたのが、支部の事務局の問題でした。

平成19年11月に大変お世話になった鶴川昇茗溪会理事長のご逝去にもない、それまで事務局としてご尽力していただいていた桐蔭学園から他へ移動する必要がありました。

そこで、現職の校長を事務局長として事務局も当該高校にするとともに、事務局員を県立高校の校長・教頭に依頼し担当者も増員することで事務局の充実を図りました。

しかし、当時、神奈川県でも有志団体の事務局を県の公共機関に置くことが問題であるとの指摘が出ていて、この課題を解決する必要がありました。

そこで、私の勤務する神奈川工科大学に依頼し、平成21年1月に本厚木駅前にある神奈川工科大学ITエクステンションセンタービルの一室を借用して事務所とすることができました。その後、当該所在地を公式の事務所住所とし、現在、事務局会議はもとより役員会、地区委員会会議などに活用しています。

事務局機能を充実させるため、平成23年度には、事務局に若い人材を入れて事務局そのものの活性化を図り、さらに、平成25年度からはこれまでの事務局の分担であった庶務・会計をさらに細分化し、庶務を総会事務・広報記録に、また、会計を会費管理・名簿管理にそれぞれ分け、事務局員も9名から14名に増員し、併せて会計監査も配置いたしました。

事務局機能の充実、神奈川の取組みを充実させるためには、重要であり、後述する神奈川茗溪会の同窓会活動を円滑に推進できるものと考えています。

総会案内発送の拡大と

出席者増の取り組み

従来の総会は、教員を主体に百数十名の支部会員に案内を送付するだけに止まっており、総会の出席者も50名前後で、一部の県庁職員を含めながら、ほとんどが教員及び教員OBという状況でした。

そこで、平成21年度の総会に向けて、茗溪会本部に登録されている神奈川支部の会員全員に案内を送付することとしました。

本部から入手した会員名簿に登録された神奈川県支部の会員数は約3,600名でしたが、そのうち住所が判明している2,200名に案内を出しました。

多額の通信費がかかりましたが、600名を超える卒業生から返信があり、初めて案内が届いた人からは感謝の言葉が書き添えられていて、事務局の苦労が報われた気がしました。

翌年の平成22年度には、前年度には含まれていなかった、他県出身で現在は神奈川県在住・在勤者を調べたところ約2,100名が該当し、そのうち住所判明した約1,400名を加えることとして、前年度の返信があった600名と併せ約2,000名に案内状を送付しました。

その後、平成23・24年度は案内先も1,200名前後に安定していますが、これは、すでにご逝去された方やご高齢になり案内を辞退された方などの連絡があった結果によるもので、現在は、この1,200名の会員に対して連絡を取るようになっています。

支部会費納入者の増加と

支部活動周知の努力

従来は、支部会費は総会の際に徴収する方法をとっていましたが、総会案内送付の際に振込み用紙を同封する方式に変更した結果、会費納入者が大幅に増加しました。総会に参加しなくても支部会費を振り込んでくれる会員が非常に多く、これまでの財政的な苦勞が、ある程度解消されるようになりました。

このような会員のために、総会案内の発送時には前年度の総会や講演会の写真、事務局の部屋や会議の様子などの写真を同封し、支部活動の理解と積極的な参加を促すようにしてきました。

「茗溪かながわ」の創刊

平成24年9月に「茗溪かながわ」を創刊しました。活動案内等の送付者の増加と会費納入者の増加を受けて、これまであまり連絡や交流のなかった会員にも神奈川県取組の理解を深めてもらう必要性と、積極的に活動に参加を促す媒体が必要であると考えて、発刊することとしたものです。

創刊号の「茗溪かながわNO.1」は、事務局員が多忙の中での精力的な取材や原稿の執筆のおかげで、満足のいくものが出来上がったと考えています。

その後、本年度になり6月に第2号を夏の総会案内に同封し、第3号を9月に発刊しましたが、会員からは好評価です。

会報を発刊するには印刷・発送と金銭的にも負担がかかりますが、会費納入者の増加のおかげで予算面での課題はどうか解決しています。

また、来年度からは茗溪会本部から、会費納入者に応じた還元金があるということですので、さらに充実して行きたいと考えています。

地区活動の活性化

本県では、20～30年前までは9つの地区を設定し、地区幹事が会費の徴収や支部総会参加の勧誘等を行っていましたが、その後、実質的に地区が機能しない状況が続いてきました。

そこで、地区の機能を改めて充実させるために、平成20年度にこれまでの9地区を5地区に変更し、平成23年度には各地区2名の地区委員を決めて、地区委員が当該地区の会員の窓口になるようにしました。

総会案内の送付の際には、市町村ごとの地区割りの詳細と地区委員の連絡先を掲載し、会員からの問合せや相談などに地区委員を利用してもらいたい旨を依頼しました。

地区委員には各地区の会員名簿を配布し、住所や勤務

先の異動の掌握をしてもらうとともに、地区委員会を開催し事務局との連絡を密にとるようにしています。

筑波大学生への支援

筑波大学では教員希望者に対して関東近県を主体として、毎年度、各県の教育委員会の職員が筑波大学に出向き、教員採用試験の実施要項の説明会を実施しています。

この説明会を、平成22年4月から神奈川県教員採用試験を受験する筑波大学生に対して、神奈川県茗溪会が実施しています。

試験に合格するためには、県教育委員会の説明内容だけでは不十分であり、神奈川県茗溪会では、実施要項の説明だけでなく、採用試験の傾向と受験対策を細かく説明するとともに、これまで集積してきた約10年分の資料を参加者に提供し、合格者の増加を図ることを目的としています。

受験に向けては、同窓の校長・副校長等から担当者を決め、各教科のアドバイザーとして受験者への助言・指導を依頼し、各人の連絡先を受験希望者に情報提供して、個別に助言が得られるようにしています。

また、1次試験合格者には合格発表直後に、神奈川県工科大学ITエクステンションセンターで2次試験対策指導も実施しており、毎年、つくばから本厚木まで通ってくる学生もいます。

これらの学生たちは卒業後茗溪会に入会する意思を持



っており、会員の入会の促進にもなっていると思います。今後は、県庁ほかの官庁希望者への支援を始め、業種による支援などができないかという点も考えていきたいと思えます。

県内会員の会合等への支援

本県でも他県と同様に、県全体でなく様々な会合や活動をしていますが、支部として把握していないものもありました。

これまでは、校長・教頭で構成されていた会合で、最近では管理職だけでなく総括教諭(主幹教諭)までを含めた「公立学校管理職等懇親会」や、体育系の卒業生で構成する「桐心会」等については一定の協力や支援をしてきましたが、これを拡充し、県内で実施している学科やサークルの同窓会の会合等にも積極的に支援・協力していくことにしました。

特に、平成24年度の総会では筑波大学出身の若い会員から「若手の会」の発足の提案があり、同年11月に第1回の会が盛大に開催され、本年も11月に開催予定で、毎年11月に継続して開催していくこととしています。

本県としては、今後とも、会員の組織的な活動には、協力・支援しながら県内の活動の活性化を図っていく予定です。

今後の課題

○会員名簿の整理と会員の把握及び総会への参加の促進

○役員組織の整理と再構築

○筑波大学生への支援(教員だけでなく)

○県庁ほかの公務員試験対策
○神奈川県茗溪会所属企業等
○茗溪会本部ホームページへの情報提供と神奈川県としての活用

《東京都茗溪会》の発足に向けて

茗溪会では、支部活動の活性化に取り組んでいるところですが、このたびこれまでの支部（行政区単位）にとらわれず広く東京で活躍する会員同士が交流できる機会をあらたに計画しています。業界・世代の枠を超えて学び合う機会を持つことを目的に、従来の支部組織は存続したまま連合組織として「東京都茗溪会」を発足させることといたしました。これには茗溪会理事会の組織委員会が協力する形で、世話人会（代表・高橋基之53筑一自）を発足させ、11月24日（日）の総会に向けて準備を進めています。

第1回総会を左記の日程・要領で開催します。

東京都茗溪会第1回総会（案内）
 日時 平成25年11月24日（日）14時～18時
 会費 4千円（当日持参）
 会場 茗溪会館2階大広間
 第1部 発 足 会
 第2部 記念講演会
 講 師 氏家 幹人 先生（歴史学者）
 演 題 東京から江戸へ
 ～歴史を編む人・ひととく人～
 第3部 交 流 会

記念講演では、教育大最後の卒業で筑波大大学院に進まれた氏家幹人氏が歴史家として「東京から江戸」を語ります。司会は池田達郎氏（NHKアナウンサー）にお願いしました。

この会を準備してきた世話人の中から、新しい東京の茗溪会への期待と課題を語る言葉をいただいたので紹介します。

異業種交流に期待します

この指こまれ

真当 哲博（57筑二人間）

東京都茗溪会が発足します。おめでとうございませう。

世話人の私が「おめでとうございませう」と能天気なご挨拶、申し訳ありません。でもこれが茗溪会と私との距離感を表す、偽らざる感覚なのです。

卒業して30年が経ちました。一般企業に就職して、異動したり転動したり、家族をもったり巣立ったたり。クラブのOB会やクラス会、ゼミ会とのつき合いはそこそこけれども大学全体の卒業生組織としての茗溪会を意識することは、正直ありませんでした。企業にお勤めの方なら分かっていただけるでしょうか、この感じ。会社の先輩・後輩を見回しても、あるいは取引先のお相手を見回しても、なかなか遭遇しないのです。「常陸野の」や「桐の葉」を歌える人。聞かれれば答えます、「あ、そうです。隠れ阪神ファンの筑波大卒業生です」。

今回ご縁があつて茗溪会組織委員会の委員を拝命し、東京都茗溪会の世話人のひとりとなり、ほぼ1年が経過しました。そして実感したのです。ああ、もつと早くお逢いしたかった、高橋世話人代表はじめとした皆さんに。異業種で活躍の同窓の皆さんとこうしてお逢いしてお話しすること、それはそれは刺激的な体験だったので。11月24日、茗溪会館で一緒にしませんか。

私がこの1年感じた、「多くを語るな、分かるよ分かる」という同窓異業種の皆さんとのひととき、「この指こまれ」と差し出された指を、ちよつと握ってみませんか。ますますご縁が広がりますように…。

東京都茗溪会の発足は意義深い

塩津 真（57筑二人間）

本年5月某日、高橋基之氏（世話人代表）からの電話で、「世話人になつてもらうことにしたから」の一言。彼からの話はいつもこう。とはいえ、筑波大1期生の高橋さんの依頼に、4期生の私としては、できうる限り応えなければならぬ。「何のことやら」と、6月の世話人会にお邪魔したのである。

しかし、改めて話を聞いてみると、今回の「東京都茗溪会」の発足は本当に意義深い。人事コンサルタントとして長きに渡り数多くの民間企業と関わっている立場か

世話人の皆さん

（順不同）

高橋 基之（都立目黒高校長）	53 筑一自
柳 久美子（元都立芦花高校長）	50 教大体
真当 哲博（学研教育出版取締役）	57 筑二人間
渡邊 悟（東京聖栄大学教授）	56 筑二農 62 筑博農
徳田 安伸（都立園芸高校長）	55 筑二農
塩津 真（㈱キャリアアンカー社長）	57 筑二人間
浅井 一郎（㈲T・A・O企画代表取締役）	55 筑一人文
飯島 睦子（大田区安方中学校長）	54 筑二人間
高野 力（茗溪会組織委員長）	48 教大農
福岡 一雄（茗溪会担当理事）	32 教大法政
重政文三郎（茗溪会事務局）	40 教大教

らすると、以前に比べて昨今「桐の葉」の同志にお会いする機会は格段に増えた。それこそ、「産業界に人材を輩出する筑波大」の歴史が年を重ねてきたことの証である。考えれば、一期生の多くはもうすぐ還暦を迎える。様々な場所でリーダーとして活躍しているのだ。

となると、同窓会としての「茗溪会」の活動スタイルが変わってくるのも当たり前のこと。特定業界に偏った集会や、23区の支部内での交流だけではなく、「東京都茗溪会」として、産業界全体を視野に入れた「異業種交流」や、年代層を超えた「情報交換・相互啓発」の場として、より幅の広い活動を活発に行っていくべき時期を迎えたといえよう。

これまで「茗溪会」を自分からは遠い存在であると認識されていた皆さんにこそ、「これは、使えるかもしれないぞ」と、是非、積極的にご参画いただくことを心より祈念する次第である。

いろんな人と繋がるとおもしろい

柳 久美子（50教大体）

私の出身は東京教育大学（体育学部）、幡ヶ谷で4年間バレーボールに夢中になった。大学4年の時の新入生が筑波大学の1期生だった。大学が繋がったことでバレー部も繋がった。離れ離れの厳しい状況の中で週末に合同練習をしながら試合に臨んだ。貴重な体験をいろいろさ

せてもらった。

男女バレー部のOB・OG会は、東京高等師範・東京文理大・東京教育大・筑波大と繋がって現在に至っている。考えてみれば奇跡である。それぞれのつなぎ目で、そのために尽力してくださった方々から感謝したい。結果である。繋いでくださった方々に心から感謝したい。これは何もバレー部だけのことだけではない。多くの部が同様だったと思う。

しかし、年月がたつにつれて、消息がわからない会員が増え、また会費を納入される方が減り、卒業しても加入しない方も増えた。私は近年、茗溪男女バレー部OB・OG会の運営にかかわるようになって、危機感が強まった。支部活動も然り、茗溪会全体の活動も然りである。(得にもならず面倒なだけだと思っている方もいらっしゃるかもしれないが)、大学時代に陰に日向にいろいろとお世話して下さった方がいたのも、卒業後も折に触れ情報提供をして下さったり激励して下さったりした方がいたのも、そして、今もずっと、仕事や趣味を超えて潤いを与えてもらっているのも、間接的な関わりも含め、その繋がりがあつたればこそである。最近つくづく思う。男女や夫婦のみならず縁は異なるもの。そういう繋がりの中で、自分がどこで生かされるか本当に分からない。そして、自分と違う世界の方と繋がるのは実におもしろい。

試行錯誤について

浅井 一郎 (55筑一人文)

おそらくは、すべての組織で立ちあげから継承の過程に試行錯誤はつきものなのだと思います。創業百四十年余の組織であればそれが無いほうが異常です。ようやく、数年前にわたくしたちの茗溪会も古い皮衣を脱ぎ捨て晴れて一般社団法人となりました。桐の葉の美しい歌詞に歌われているとおり、古いものにしがみつかず新しい道を模索すべきだと思います。

今回、ここに発足を迎えることとなった東京都茗溪会もそのような組織再生に向けたゆるぎない第一歩とな

ることを期待します。教育界に限らずより広範な卒業生の結集を図る、その絶好の機会として、11月24日の休日に東京や関東圏のみならず全国から茗溪の縁を持たれているすべての茗溪会員が参集してみることは貴重なことと考えます。

過去を振りかえり、そこから先人の知恵を学びとることは、いつの時代でもとても重要なことだと思いますが、いかんせんわたくしは普通の日本人は自分の曾祖父がたが、普段読み書きなさっていた古文書をまったく読めません。これはたいへん悲しいことです。

今回の発足の講師である氏家幹人さんは教育大と筑波の院を両方経験された稀有の方でして、ご著書も多数あります。おそらくはたいへん刺激的なおもしろい江戸話をしてくださる超一流の歴史学者だと思います。ぜひ皆様ご多数お誘い合わせのうえご参加ください。

東京都茗溪会の発足に期待する

渡邊 悟 (56筑二農62筑博農)

葛飾の茗溪会(葛茗会)に初めて参加したのは、もう30年以上前にさかのぼります。

その頃は、長谷川節三先生(元茗溪学園長)を筆頭に、多くの錚々たるメンバーがおり、20名を超える教員が金町や亀有で1年に1回顔を合わせ、密な情報交換がなされてきたことを思い出します。

時代は移って次第に茗溪出身の教員が減少して、教員中心の支部活動が出来にくくなっているのが現状であり

平成25年10月15日

平成26・27年度 代議員選挙公示

一般社団法人茗溪会 選挙管理委員会

定款では、代議員が法律上の社員となり社員総会の議決権を持つと定められており、代議員の選任は、全正会員からの立候補及び推薦による候補者を全正会員の投票により選出することとなっております。代議員選挙規程にもとづき下記の通り選挙を実施します。

記

1. 代議員定数110人 (25年4月1日現在正会員数による)
2. 立候補手続き (①立候補者)
 - (1) 立候補資格：本会正会員 (最近2年間の会費納入者または完納者)
 - (2) 立候補の条件：所属する支部の3名以上の正会員の推薦
 - (3) 手続き：「立候補届」(様式6-1)を所属の支部長に提出
 - (4) 立候補〆切：11月5日
3. 推薦手続 (②推薦候補者)
 - (1) 被推薦者の資格：本会の正会員
 - (2) 推薦の条件：正会員3名以上の推薦
 - (3) 手続き：「候補者推薦書」(様式6-2)を支部長に提出
4. 支部とりまとめ
 - (1) 支部長は候補者名簿(様式7)を選挙管理委員会へ提出
 - (2) 提出期限(支部から本部選管へ)：11月20日
5. 候補者名簿：季刊誌『茗溪』正月号に同封、投票用紙を郵送
候補者数が代議員定数以内の時は候補者をもって当選とする。
6. 投票：正会員は、投票用紙を選挙管理委員会宛郵送する。
投票〆切：2月10日
7. 当選代議員公示：季刊誌『茗溪』春号に代議員名簿を掲載

ます。その中で、徳田安伸先生(現都立園芸高校長)から引き継ぐ形で私学の小生がこれ5年支部長を承っている現状は驚きであります。総会の形では会員も集まらなくなっており、茗溪会本部のお力を借りて、3月初めの日曜日に勉強会を公開で始めることにしました。第1回「東京(特に葛飾区)における食育の現状」・第2回「東京都における農業教育の可能性」・第3回「食生活力の向上について」・第4回「和食が世界無形文化遺産?」と重ねてきました。今年度も3月2日(日)に第5回勉強会を実施する予定で、「茗溪」正月号には改めてお知らせするつもりです。

さて今般、東京の支部活動を活発にすべく支部連合的な「東京都茗溪会」が発足することは誠に喜ばしいことです。様々な垣根を取り払って未来志向の新しい筑波同窓会「東京版」の旗揚げを心から祝うとともに、皆様のご支援がいただけるよう頑張る所存です。

(葛飾支部長)

筑波大学と茗溪会との連携強化について

筑波大学 東 照雄 副学長・理事に聞く



東 照雄副学長・理事には、ご自身による同窓会の体験や現在の職務との関連から「茗溪会に何を期待するか」また、「大学と茗溪会との連携をしていくためには何が必要か」ということについて、話していただきました。

聞き手は、筑波大学教授・茗溪会理事の佐藤 忍氏です。



同窓会の原点とは

佐藤 東先生は、これまでにご自身の出身校の同窓会と深いかわりをもたれてお聞きしています。最初に、同窓会に対する東先生ご自身の思いや考えを聞かせください。

東 私は、大学関係では四つの同窓会に入っています。出身の九州大学、最初に赴任した鹿児島大学、さらに筑波大学、それに留学先のベルギーのゲント大学があります。ベルギーの大学とは、定期的に送られてくる同窓会誌を通して繋がっています。

同窓会とは何かについて、原点に戻って考えると、同じ学び舎を出た「人と人のつながり」ということに帰結していくと思います。そして、自分の育ってきた道、あるいはアイデンティティを再確認する存在としての組織が同窓会であると思います。

私は、若い頃は同窓会への意識はそれほど強くなかったのですが、年齢を重ねるとともに出身大学の状況や仲間の様子を知りたいと思うようになりました。最近の同窓会の広報活動は、ホームページ（略称HP）等のような電子メディアによるものが多くなっていますが、同窓会誌等を見ると関係者や仲間一人ひとりの活躍の様子が触れることができます。かつての仲間の動向を知ることができる、連帯感や勇気を与えられることが多いですね。このときほど、同窓会の原点といったものを感じることはありません。同窓会誌を通して仲間の情報が伝わることは、すごく意味のあることだと思います。

さらに同窓会誌の機能として大切なのは、卒業生だけではなく、在学生たちにも企業等で活躍している先輩達の情報を届けるということです。学生たちからは、就職関係の強力な情報として歓迎され、同窓会の存在価値が高まりますし、また、学生たちに同窓会予備軍としての期待もできます。

★附属学校の同窓会

佐藤 東先生は、昨年まで附属学校教育局の教育長を担

当されました。そういう立場から附属学校の同窓会に対する考えをお聞かせください。

東 筑波大学の附属学校は11校ありますが、それぞれに長い歴史があります。附属学校を訪問して、PTA組織と同窓会のつながりがしっかりしていることに驚きを感じました。この組織力は、附属学校を愛していただいていることや学校の教育に誇りを持っていただいていることから生まれていると思います。

運動部の振興・強化をめざすTSA

佐藤 東先生は、「筑波大学スポーツアソシエーション（略称TSA）」も担当して、運動部の振興・強化をめざす仕事に力を入れておられます。このTSAが今どんなことに取り組んでおられるのか紹介してください。

東 最近、茗溪会の季刊誌「茗溪」夏号で「ラグビーの軌跡」を特集されました。さらに、公開講座として4月20日のオープンングセレモニーから始まり、6月2日までの長期間「講演と企画展」を開催していただきました。これは、大学と茗溪会との連携という点で大切な企画であったと思います。全国的なニュースとして同窓生の方は誇りに思ったことでしょう。私も応援席にいましたが、国立競技場で全国から集まってきた仲間が「桐の葉」の名の下に結集していたあの一体感に感動しました。

佐藤 私も研究室の学生と一緒に参加しましたが、多勢の学生が応援していました。筑波大学は、スポーツが活発ですが、あのときほどスポーツにつながることはすばらしさを感じたことはありません。

★箱根駅伝復活を！

東 「TSA」は、全国初の大学組織として平成24年度に運動部の強化事業、アスリートサポート事業や社会貢献事業等を実施するために設置されました。

学長直属の組織であるTSAのねらいの一つは、大正9年の第1回箱根駅伝大会で前身校の東京高等師範学校が総合優勝経験をもつ箱根駅伝の復帰です。

もし、正月の箱根駅伝に筑波大学が走っていたら、ラグビーのときと同じように、現役と若溪会員との一体感もさらに強まるでしょう。

復活することは、一朝一夕には難しいと思いますが、「5年以内に出場、10年以内には上位」を目指しています。若溪会としても、ぜひ応援してください。

今年、人的整備として駒澤大学で箱根駅伝を走った経験のある松村特任助教を採用しました。彼はコーチングの専門家、現在、女子駅伝の指導にも成果をあげています。そしてもう一人、陸上競技部の榎本准教授にもTSAに加わっていただくなど指導陣の強化を図っています。さらに、事務職として新たに一人日下氏をTSAに配置しました。

佐藤 筑波大学と前身校は、89回の大会のうち62回の出場をはたし出場回数では10傑の9位というポジションを保っていた箱根駅伝の常連校でした。1995年以降は出場できない状況が続いています。箱根駅伝の復活は同窓生の悲願でもありますので、TSAの新たな挑戦が実を結ぶことを期待しています。

☆TSAの広報

佐藤 ところで、こうしたTSAの取り組みの様子は同窓生の皆さんにも、もっと知ってほしいと思います。いまはどのような広報をしているのでしょうか。

東 TSAの主な広報は、「TUKUBA SPORTS NEWS FLASH」として、最近のスポーツの試合結果をまとめたものを月1回発行しています。この資料は、大学評議会、経営協議会等で配布しています。また、HPでも見ることができるようになっております。おかげさまでアクセス数が増えています。

佐藤 この資料は、同窓生にも配布されているのでしょうか。

東 現在、大学としては配布していませんが、TSAの活動や筑波大学の運動部の活躍を同窓の皆さんに知ってもらうためには、この「TUKUBA SPORTS NEWS FLASH」を、若溪会のルートを使って配布していただけるとありがたいですね。必要な予算は、考慮したいと

思っています。

また、TSAでは皆様からの筑波大学基金としての寄付をお願いしています。この基金には、学生の人材育成等支援のための一般基金と特定事業支援のための特定基金があります。TSAは、特定基金の一つですから、寄付していただいた基金は、すべてTSAの事業に活用できます。ぜひ協力をお願いいたします。

TSAは、まだスタートしたばかりですが、同窓会とのつながりを深めるとともに、筑波大学学生等との思いを共有するツールとして大切に育てていきたいと考えています。

若溪会による学生支援

佐藤 若溪会は、筑波大学同窓会として母校の学生を様々な形で応援しております。その一つが学生活動支援事業です。大学は、主に学習支援を行なっていますが、若溪会は、個人や団体の課外活動の取り組みのうち、大学祭を含めて「公共性の高いイベント」などについて年額300万円を支援しています。もう一つ、顕彰事業ですが、これまでは、一般社会人の一部として学生の社会貢献活動を顕彰してきました。昨年度から各専攻長の推薦があ



佐藤 忍 さとう しろう

生命環境系教授・生命環境学群長
教育企画室長
(前 職) 筑波大学生物学類長
(専門分野) 植物生理学
(学 歴) 1985年筑波大学大学院
生物科学研究科博士課程修了
(学 位) 1985年理学博士(筑波大学)

った大学院修了生で、学習や研究での専門性を生かした社会貢献活動も対象としました。さらに、永年行なってきた芸術分野での優れた芸術作品の顕彰も含め、三分野を「若溪賞」の対象としました。そのほかに、若溪会筑波大学支部(教職員)では、支部会費の一部から若溪会筑波大学支部賞を出しています。対象は、クラス活動など大学や他の学生のためになる活動を行なった学群の卒業生です。これからも学生たちをエンカレッジするような支援をやっていききたいと考えています。

☆若溪会の学生支援事業への期待

東 若溪会からは、多くの学生を支援していただいていることに感謝を申し上げます。今後も、学生支援について一層の理解と協力をお願いします。

最近では、佐藤先生がふれておられたように顕彰の範囲を広げていただいているとのことですが、対象となった学生および団体には励みになるでしょうし、若溪会への認識も深まると同時に、若溪会のために尽力しようとする学生が増えていくのではないのでしょうか。

さらに、今、若溪会に求められている役割として重要性を増してきているのは、学生の就職活動、キャリアパスに関係した活動ではないかと思えます。たとえば、支部として、就職活動をめぐる講演会や研修会等の開催を、大学と同窓会が共同で行なうことなども必要なことだと思えます。

佐藤 筑波大学は総合大学ですから、最近では就職につき学生よりも教職以外の分野に就職する学生の方が増えています。学生の就職活動の支援策としては、今後、今まで行ってきた教職以外の分野でどのようなネットワークを作るかが課題です。たとえば、公務員、企業等の分野で何ができるのかについて、私としても検討していきたいと思えます。

東 私事で恐縮ですが、私の息子は筑波大学大学院の教育研究科を出て、茨城県の社会科の教員になっています。若溪会の先輩が多くいて、いろいろなところで恩恵を受けていると話しています。若溪会は、日本の教育界で長い歴史と伝統を持っていますから、これらの事実とネッ



東 照雄 ひがし てるお

副学長・理事：総務・人事担当
(前 職) 筑波大学副学長・理事
附属学校教育局長
(専門分野) 土壌環境化学
(学 歴) 1975年九州大学
農学研究科修士課程終了
(学 位) 1982年農学博士(九州大学)

☆理事長と学長が支部総会に参加

東 私は、外国を除いて3つの大学の同窓会に入っていますが、いずれも全国に支部があります。それらの会報誌を見ると、各支部の活動の様子が報告されています。

個人情報もかなり具体的に書かれています。会報誌は、会員同士が情報を共有することのできる広場です。最近の例では、会報誌に載っていた活躍している知人の元氣そうな顔写真を見て、「よくがんばっているな」という喜びを感じました。このような支部の活動は、基本的に大事なことですね。

それから、支部活動を活発にするためには、本部と支部が強い絆で結ばれていることが大切です。例えば、九州大学の学長は、全国の支部会に出席しています。つくば地区にも支部会がありまして「博朋会」と呼んでいます。学長も出席する中で熱い情報交換が行われており、つくばに赴任した当初は、有意義な情報が得られるなど救われました。茗溪会は、江田理事長が支部を回っておられるとお聞きしていますが、今後、可能であれば、永田学長等が茗溪会の支部会に出席することも、大学と茗溪会との連携を図るといふことから必要なことだと思います。

トワークは大事に育てていってください。さらに、茗溪会には、教育界以外の様々な分野に進む学生の就職活動のための支援をお願いしていくことになると思います。大学と茗溪会が役割を分担し、連携を取りながら、学生に「役に立った」と喜ばれるような一層の支援策を考えていかなければなりません。

筑波大学との連携

佐藤 幸いにキャリア支援室長の守屋正彦先生が茗溪会の理事でもありますから、茗溪会とキャリア支援室との連携についても話し合いながら、同窓会組織である茗溪会は、学生の就職活動支援として「何ができるか」「何をしなければいけないか」を検討してまいります。

佐藤 茗溪会には、地元や職域に根ざした活動をしている支部が全国にあり、本部理事会の中では高野 力氏が委員長とする組織委員会が支部を担当しています。また、大学には学生の県人会がありますので、両者のタイアップも考えられます。茗溪会が、学生・大学院生、社会人である同窓生にとって、「役に立つ、頼りになる組織」となっていくためには、何が必要か等、今後の茗溪会のあり方についての考えを聞かせてください。

☆情報提供の充実

東 もう一つ大切なことは、情報提供の充実についてです。大学は、筑波大学新聞、TSA、つくばコミュニケーション等々、多くの紙媒体による情報提供をしています。本来は、大学がやるべきことなのですが、大学の情報を同窓の皆さんに提供するために、茗溪会の本部から各支部に配布していただけないかということ。大学の最新の情報を共有することにより、同窓の絆がいつそ

迎えることと思います。東 大学関係者が、支部会に出席して大学の現状などを報告することは、大学と茗溪会の一層の連携を図る上で必要なことだと思います。

う強くなるのではないでしようか。

佐藤 学生たちに卒業後も引き続き茗溪会の会員として大学や茗溪会の活動に関心を持ってもらうためには、会費の優遇措置(注・学生会員は在学中無料、卒業後3年間納入を猶予、会費35回分納した会員または入会後5年以内に25回分納した会員は、会費納入義務終了)だけではなく、東先生のおっしゃるように情報の提供が必要だと考えています。例えば、卒業後も学生目線で作成している大学新聞が定期的に送られてくれば、それを読むことにより大学や茗溪会への関心を一層呼び起こすことができるようになります。

大学の情報を知ることが、筑波大学での貴重な経験と思い起こすとともに、筑波大学卒業生であることを再認識することにもなるでしょう。

東 茗溪会との連携により大学の情報を様々な形で同窓生に知らせることは、江田理事長も話されている。大学と茗溪会の連携を、一層強化する有力な一つの方法だと思います。それに必要な予算は、大学として考えることが重要です。茗溪会から多くの学生支援をいただいていることでもあり、永田学長からもその方向で了解をいただいています。

大学からの情報提供は、学生はもとより、茗溪会員や同窓生が喜ぶことなので、ぜひ実施したいと思います。

☆一層の連携強化を

東 これから力を入れていかなければならないことは、筑波大学と茗溪会との連携を強化する基盤をつくるというところでしよう。それは、江田理事長が話されているように、従来からやってきたことを充実させることや、今回話したような新たな対応を講じるということだと思えます。基本的には、学生や卒業生が茗溪会の会員になることのメリットを実感できるような施策を、双方の努力と工夫の積み重ねにより実施していくことだと思います。佐藤 本日は大学と茗溪会との連携について、東先生からお話を聞くことができてありがとうございました。貴重な提言を具体化していくために、これからも、より一層の力添えをお願いいたします。

平成25年

「追悼のつどい」

宗旨・宗派にこだわらない形式に変更してから8回目の「追悼のつどい」が去る平成25年9月7日(土)に開催されました。昨年から本年夏までに、ご逝去された遺族の方々に連絡いたしましたところ、19家族、34名の参列をいただきました。本会からも理事多数が参列しました。

写真のみの参加の25名を加えて44名の遺影が飾られた「茗溪会館」二階の「茗溪の間」では午前11時に開式され、参列者一同が遺影に黙禱後、江田昌佑理事長が「追悼の辞」を述べられ、挨拶されました。続いて来賓として筑波大学学長代理として阿江通良副学長が挨拶されました。その後、一同が献花し、式は終了しました。12時からは会場を四階に移して「懇談会」が開催されました。江田理事長の挨拶のあと懇談がもたれ、その後、5人の遺族の方々からスピーチをいただきました。ここに、その一部を紹介します。



故 角尾 稔様(昭和22年大心卒) ご長男 角尾 弘様

父は大学卒業後、東京学芸大に勤め「子供の心をどう育むか」を研究し続けました。幼児教育も戦前と戦後では、一変して、例えば絵を描くにしても戦前の型にはまった絵ではなく、自由に描かせるようになりました。

東京学芸大学では卓球部の顧問として、東京教育大学の卓球部と大いに交流したと話していました。東京学芸大学退職後は文京大学に勤め、88歳まで長生きしました。



故 山口 一巳様(昭和24年文四卒) ご長女 尾山樹子様

父母は以前の「茗溪会館」に何度か宿泊したと聞いていますので、今日は地下鉄の駅から、父を思い出しながら歩いてきました。私も筑波大の3期生で、第2学群人間学類で学びました。

父は西洋史が専攻で、佐賀県の高校で世界史の教師として、自作の教材をガリ版と鉄筆で作っていたのを子供の頃から見ていました。

甲子園で優勝した佐賀北高校に教諭と教頭として勤め、校長を勤めた佐賀東高校の時には、佐賀県高野連の会長を勤めました。

学生時代から音楽が好きで、父の遺品を整理していたら、学生時代に聞きに行った古いコンサートのプログラムが出てきました。カルメンのレコードを買ったが、レコードをかける蓄音機がなく、貸してくれる人を探し回っていたと学生時代のお友達から伺いました。

退職後も東京までオペラを見に行ったり、イタリア語・ドイツ語・フランス語などを勉強して海外旅行に出かけ音楽を楽しんでいました。父は茗溪会の集まりが大好きで、文四の仲間10人くらいとよく集まっていました。



故 和田 優様(昭和25年理三卒) ご長男 和田 雅文様

父は長野県の戸隠村の農家の三男に生まれました。小学校四年生の時に火災で家が焼けた時に担任の先生が自腹で学用品を用意してくれたことが、勉強に目覚めたきっかけだと聞いています。親の反対を押し切って松本中学定時制(現松本深志高)に進み、新聞販売店に住み込んで働きながら卒業しました。高等師範を受験したのは学費の心配が

ないからだだと聞いています。理三では植物学を専攻し、卒業後、高崎女子高校の教員になりましたが、三年で退職し、大東文化大学や東京教育大学大学院で勉強し、74歳まで大東文化大学に勤務しました。父は日本タンポポと西洋タンポポの研究を続けた、がんばり屋でした。平成15年に交通事故に遭い、9年間も要介護状態でしたが、理三の同窓会にはよく出かけ、とても喜んでいました。



故 忽那 凱樹様(昭和27年体卒) ご長女 忽那 洋子様

父は東京高等師範学校最後の卒業生で、ラグビーをやっていました。兵庫県の高校教員から、三菱電機の中央研修センターで三菱電機に就職した中学校卒業生の指導にあたり、その後、園田女子大学に10年ほど勤めました。

父は茗溪会の集まりを大変楽しみにしていました。父が亡くなって2週間後に高師のラグビー部でパスをしていた親友が亡くなり、二人で旅立ちました。



故 須田 弘様(昭和27年文三卒) 孫 笹田 真菜美様

私は祖父が大好きでした。私が現在、幼稚園の教員になったのも祖父の影響です。都立高校の英語の教師として勤め、最後は大泉北高校の校長を勤めました。

祖父は時間にせっかちな人で、祖父と祖母が旅行をしたときに、祖母を残して先に行ってしまふこともあったそうです。趣味は尺八で、よく家で練習し、日比谷公会堂での大会に参加していました。また盆栽いじりも大好きで、台風が接近したりすると、大切な盆栽を家の中にしまったり、盆栽がとばされないように縛ったりしていました。

木、「八部(やたべ)」、「八代」のように訓読みである。「八太」(はた)は「幡多、波太、八多」などと同様、「八」の音読みの「は(ち)」を利用したのか。

「十」は訓読みの「十市(とをち)」だけである。

「十」より多い数字のうち、「百」は「百済(くだら)」だけである。この地名は百済からの帰化人が多く住んでいたことにちなむ。語源は「く(大)+たら(村落)」など諸説があるが、いずれも「百」を数字とみなしていない。「千」は訓読みの「千葉、千曲、千俣」など9例がある。「千栗(ちりく)」は「ちくり」が音位転換したものの。「千太」は訓読みの「ちた」と、音読みの「せむ(山が迫る)+た(処(ところ))」とみなす説が競合している。

古代日本の地名のうち、漢数字で表記されているものはほとんど訓読みであるが、数字に意味はなく、表音上漢数字を借りている例が多い。音読みの場合にも同様の例が若干ある。

4 英語の命名の特徴

英語には Coleman (<炭坑夫)、Edelman (<高貴な人)、Goldman (<金取引職人)、Newman (<新来者)、Trueman (<信頼できる人)、Wellman (<泉のそばの住人)、Whiteman (<白髪・顔色の悪い人)、Wiseman (<賢い人) のように、-man 「~の人」を第2要素とする名前がかなり多いが、いずれも職業やあだ名に由来する。

一方、父祖名を継承した「~の息子」を表す語尾はいくつかある。アングロサクソン系の -ing は Fleming 「フランドル地方の人」、Havering 「ヘープリング」のように地名か人名を表す。-son も同様に「~の息子」を表し、古ノルド語の sunr 「息子」に由来する。例は Anderson, Edison, Emerson, Erikson, Harrison, Hudson, Jackson, Jefferson, Johnson, Lawson, Madison, Nelson, Parkinson, Richardson, Robertson, Robinson, Stephenson, Tennyson, Watson, Wilson など実に多く、地名になっているものもある。ちなみに、この語尾は北欧では Amundsen, Andersen, Hansen (Hans の息子) のように -sen となっている。

アイルランド語では「~の息子」は O'- という接頭辞で表し、O'Brien, O'Connor, O'Donovan, O'Flaherty, O'Grady, O'Hara, O'Kelly, O'Leary, O'Neil, O'Reilly, O'Sullivan, O'Toole など、例はかなり多い。

Mac-, Mc- は M(a)cDonald, MacArthur, MacBeth, McCartney, McGovern, McIntosh, Mackenzie など、「~の息子」を表すスコットランドやアイルランド系の人名に多い。

5 英語の命名の歴史

英語をさかのぼると、命名の特徴や原則が現代と異なってくる。8世紀初頭に成立した叙事詩『ベーオウルフ』の登場人物の場合、男の名前では Ecg-laf 「エッジラフ」(剣+遺物)、Gar-mund 「ガールムンド」(槍+手)、Oht-hera 「オーホトヘレ」(追跡+軍隊)、Scyld 「シュルド」(楯)のように武器や戦の名で構成されている場合が多いが、女の名前の Frea-waru 「フレイアワル」(支配者+配慮) や Hygd 「ヒュイド」(配慮) には女らしい優しさが込められている。しかし、他の構成素は男の場合と変わらず、Hilde-burh 「ヒルデブルフ」は「戦闘の砦」を表す。

991年に港町モールドンでデーン人と戦って敗れた太守の非業の死を悼んで書かれた古英詩『モールドンの戦い』の場

合、30余名の武人の名のうち、Gadde 「ガッデ」や Maccus 「マックス」などの単純語の原義は不明であるが、Ælfhere 「身軽な戦士」、Ælfnoth 「小柄の勇者」、Æthelred 「高貴な力持ち」、Æthelric 「高貴な兵」、Byrthelm 「輝く守護者」、Byrhtnoth 「眩しい勇者」などの複合語の場合、キリスト教の伝来(597年)から400年近く経っているが、当時の武人の名前にはその影響は全く見られず、むしろゲルマン古来の命名の特徴が色濃く表れている。また、名前から武人たちの位が高かったことがわかる。

ゲルマン民族の伝統的な命名の特徴は頭韻にあり、ブリテン島に移住したジュート族の武将 Hengist と Horsa の兄弟や、『ベーオウルフ』に登場する Healfdene の息子 Heorogar, Hrothgar, Halga のように、子は親の名と同じ子音で始まる。

5世紀末にイギリスにキリスト教が伝わると、聖書に登場する名前が好まれるようになり、男の名前では、Abraham, John, Paul, Peter などの預言者や聖人の名前、女の名前では、Ann, Catherine, Elizabeth, Mary などが好まれるようになった。

英語圏の命名は職業やあだ名だけではなく、父祖名を継承したものが多く、数字はほとんど無縁である。

6 日本語の命名法

小規模で子沢山の農家が大半であったかつての日本の農村地域では、田畑を子どもに分配すると生計が維持できなくなるため、次男以下は他家に婿入りして、そこの家業を継ぐか、独立して会社や公の機関に勤めるかを選択せざるをえなかった。このような状況では、男子の名前の数字は家督相続の順序を示し、地域社会にとっても好都合であったのであろう。このことは命名の特徴として表れていて、男の子には順序を示す数字が好まれた。漢数字は一郎、三郎、五郎、八郎、一夫、三夫のように、最初に用いられる場合が多いが、勇一、信三、伝八、美千夫のように二番目となることもある。正雄、正男などの「正」、次男、次郎などの「次」は数字ではないが、一番目、二番目を表す。

一方、女子の命名にも漢数字は用いられるが、一子、二美、三三子、二三子、八重子のように第一要素に限られ、第二要素には用いられない。かつては、農村を中心に、大切な動植物である稲や牛、強い動物である熊、虎、龍、あるいは吉祥や長寿の願いを込めた「亀」、「鶴」、「朱鷺」にちなむ命名が多かったが、最近はこのような命名はすたれている。むしろ、「三貴、七海、百々子、千尋」など、口調や響きの良い漢数字が選ばれる。

7 まとめ

狩猟や牧畜中心のヨーロッパでは、牧草地や森林の分割相続や長男に限った遺産の分配は慣習とはならなかったことから、男子の名前に出生順を示す必要もなく、命名には数字はほとんど用いられない。もっとも、父系中心の社会を反映して、父祖名を継承した姓は広く用いられている。また、地名に人名や部族名が深く関係していることが多いことも大きな特徴である。一方、日本語の場合、地名と命名に数字が密接に関わっている点は欧米と大きく異なる。

講演後の質疑応答も活発で楽しいひと時であった。

茗溪会公開講座

藤原教授の英語のはなし 第五弾

「地名と人名から探る英語圏の文化」

講師：藤原 保明(筑波大学名誉教授)

今回の講演では英語と日本語の人名と地名に込められた言語・民族・時代・文化などの情報を解きほぐしてみた。

1 イギリスの地名とその由来

イギリスという名称はポルトガル語の Ingles に由来し、正式には「大ブリテン島および北アイルランド連合王国」、略称は「連合王国」である。イギリスを構成する諸島の中心は大ブリテン島 (Great Britain) であり、イングランド、ウェールズ、スコットランドという3つの国を含む。ブリテンという名称はケルト系の先住民のブリトン人 (Briton) に由来し、イングランドと「英語」の English はゲルマン系のアングル族 (Angles) に基づく。

イギリスの主な地名のうち、ロンドン (London) の語源には諸説あるが、「勇敢な」を意味するラテン語の Londinos (人名また部族名) が有力である。テムズ川は「暗い」の意のサンスクリット語の tamasa に由来する。オックスフォード (Oxford) は「雄牛+浅瀬」という語構成である。ケンブリッジは古英語では Grantebrycg (「泥川」(grante)+「橋」(brycg)) であったが、その後、音も綴りも変化し、現在に至る。

ダービー (Derby) やラグビー (Rugby) などの語尾 -by は村や野原を意味する北欧語の古形に由来し、ヴァイキングが定住したブリテン島の北東部に多い。アングロサクソン系の人々の住む地域では、Gainsborough, Peterborough, Canterbury, Salisbury などのように、この語尾は -borough または -bury となっている。

観光の名所 コッツウォルズ (Cotswolds) は古英語の Codeswald 「コード (人名) の森」に由来する。「ランカスター」(Lancaster) は古英語の Lonceaster 「ルネ川の畔の砦」までさかのぼれる。「ドンカスター」(Doncaster) の Don- は「ドナウ川」(Danube) や「ドン川」(Don) と同様、サンスクリット語の danu 'rain, moisture' に由来する。一方、「ランカスター」の -caster は南に下ると Dorchester, Manchester, Winchester のように -chester に変化し、さらに Gloucester, Leicester, Worcester のように -cester へと変る。なお、Manchester の Man- は古英語の mam 'hill, breast', Worcester の Wor- は古英語の Wigra (<Wigoran 「ウィゴラ族の」) までさかのぼれる。

2 アメリカの地名とその由来

「アメリカ」は新大陸に3度渡航したイタリアの商人アメリゴ・ヴェスプッチにちなんでドイツの地図製作者が命名したことに由来する。

米国の首都ワシントン (Washington) は古英語の Wassingaton 「ワッサ族 (Wassa) の農場」に由来する。語尾 -ing は

民族・父祖・地名を表し、Fleming, Stirling, Wapping などの人名・地名に残る。一方、語尾 -ton は古英語では tun [tu[n] 'enclosure, village' であり、現在は town となっている。-ton で終る語は Clinton, Edmonton, Eton, Hampton, Hilton, Merton, Newton, Norton など、多くの地名・人名に見られる。-ington (= -ing+ton) で終る地名には Kensington, Paddington, Wellington などがある。

アメリカには New York, New Jersey, New Orleans のように New がつく地名が多いが、これはイギリス人移住者の新大陸に対する期待の表れである。York は古ノルド語の Iork 'boar' に由来するが、ウェールズ語の eburos 'yew' 「櫟 (いちい)」に発する。ちなみに、York はブリテン島の中間に位置し、かつてヴァイキングが移住し、王国を築いた所である。

Boston は中英語の Botuluestro (u)n (=St. Botolf's town 「聖ボトルフの村」) に由来する。ロサンゼルス (Los Angeles) はスペイン語の los Angeles 'the Angeles' に発するが、本来は聖母マリアを称えた命名であった。一方、シアトル (Seattle) はインディアン の酋長 See-yat にちなむ。

このように、英米の地名の元に人名があり、地名は人名に転用されることが多い。

3 日本語の地名と数字

漢数字を用いた日本の地名は多いが、「一、四、九」は古い地名には用いられない。音読みの「四」は「死」、「九」は「苦」を連想するため避けられたであろうが、訓読みの「一 (ひと)」が用いられない理由は不明である。「四谷」や音読みの「四十九 (しじゅうく)」は新しい地名であろう。

「二田 (ふただ)」、「二見」、「二俣」など、「二」はすべて訓読みである。音読みは「二色 (にしき)」と「二宝 (にほ)」があるが、前者では「丹 (に)」、後者では「邇保 (にほ)」など、数通りの表記や解釈がある。漢数字の「二」(に) を借りたのかも知れない。

「三」は「三角 (みすみ)」、「三島 (みしま)」、「三谷 (みたに)」など、最も例が多いが、いずれも訓読みである。

「五」は訓読みの「五公 (いきみ)」のみであるが、「いき (池) + み (あたり)」という説は漢数字の借用を窺わせる。

「六」は訓読みの「六名 (むつな)」と「六座 (むつくら)」の2例だけである。

「七」は「七崎 (ななさき)」と「七美 (しつみ)」の2例だけであり、後者は「しつ (垂) + み (廻) = 傾斜地のあたり」の意味である。「七」の音読みを「しつ」に当てたのか。

「八」は「三」について多く、20例のうち19例では「八

茗溪学園だより

茗溪学園の行事・キャンプ(中1・中2)

9月は中学1、2年生のキャンプが行われました。このキャンプは、本校が掲げる教育目標とそれを達成するために掲げた5つのプログラムのうち、自然の中での活動フィールドワークを通して、考える力、逞しい心身、人間尊重の態度を育むことをねらいとする活動です。

さしまキャンプⅡ中1

中1は2泊3日で行われます。今年は9月3～5日でした。キャンプ地は、開校以来三十年以上茨城県北部の里美村でしたが、今年は本校により近い県西地区の「さしまキャンプ」となりました。

中1では、野外での生活技能獲得つまり野外炊飯(三食とも計5食分を自分たちで作る)とテント生活を第一としています。他にオリエンテーリング、キャンプファイヤー、星の観察を行います。今年は、キャンプ地を近くしたことから移動に余裕ができたので、途中、SSH(スーパーサイエンスハイスクール)中1テーマ「水の研究」に関わる調査を加えました。(このSSH活動は、社会科、理科、家庭科など複数の教科で「水」をテーマに様々な視点から調査活動をして、より深く探究する



中1-① テントサイトは芝生広場



中1-② 朝の食事作りでは昼のお弁当のおにぎりも作る



中1-③ オリエンテーリング：出発前にコンパスを使ってポストを確認する



中2-① 中2では斜面にテントを張る



中2-② 調査ポイントを目指して山道を登る



中2-③ 土地利用調査：「両方果樹園だけど、こっちは柿であっちは梨だぞ」

る方法を学ぶことをねらいとしています。

親元を離れての宿泊、共同生活体験のない子どもが年々増えてきている状況の中、本校のキャンプは生徒達にとってはかなりストレスとなっています。しかし、5月に全員で5泊6日の寮生活をする「短期入寮」を経てこのキャンプ生活に臨むのですが、これらの体験を通して不便なこと辛いことを乗り越えてみんなで楽しもうという心、気遣いや忍耐力が見えるようになるのです。

筑波山キャンプⅡ中2

中2は3泊4日です。今年は、9月10～13日でした。

キャンプ地は、学校から20km離れた筑波山麓にありますが、初回の1980年以来生徒達はこの20kmを歩いて行きます。キャンプ生活(食事作りやテント生活)は問題なくこなせるとして、調査地を一日中歩き回るフィールドワークが追加されるので、中1の時より1日長くなっています。オリエンテーリングも行いますが、歩行距離も難易度もレベルアップしています。テントサイトは標高差150mほどの山の上に設置しますが、4日間での山道を何度も上り下りして合計では60～70kmを踏破することになり、体力気力が試されます。

フィールドワークの内容は、物理分野で自然界の放射線測定、地学分野で露頭の観察、生物分野で水質検査、地理分野で土地利用図の作成と農家の方への聞き取り調査などです。

9月のキャンプは、例年、猛暑に襲われたり台風に襲われたりしますが、生徒達は、くじけることなくキャンプ生活を全うします。熱中症対策や緊急時の連絡体制など生徒自身にしっかり考えさせる機会にもなっています。大雨でテントから退却し、体育館で雑魚寝の避難生活を体験したこともありました。自然の厳しさを実感しつつ、逞しく成長する姿が見てとれるキャンプとなっています。

中学ラグビー部 日本一

9月14日から16日、水戸市で行われた第4回全国中学生ラグビー大会に関東地区代表として出場し、九州、関西の代表校を破り、見事日本一の栄冠に輝きました。

この大会は、全国を関東、関西、九州の3ブロックに分け、それぞれのブロック代表8校で日本一を競う大会です。本校の試合は、初戦、準決勝とも実力伯仲の好ゲームとなりましたが、終了間際の劇的逆転で勝ち上がりました。台風のため決勝戦は中止となり、奈良県の天理中学と両校優勝となりました。



全国優勝した中学ラグビー部員
©2013, JRFU photo by H.Nagaoka

茗溪フェロー 協力者ご芳名 ご協力ありがとうございます

2013年9月末現在 五十音順

Table listing names of collaborators in 50-character order (A-Z). Each row contains a vertical list of names, with some names appearing in multiple columns. The names are organized by their first character, from 'ア' (A) at the top to 'コ' (K) at the bottom.

平成25年度 茗 溪 会 支 部 組 織 表

	代表者 (卒年科)	事務担当者
筑波大	大澤 義明 (62筑博社工) (62筑博社工)	大澤 義明 (62筑博社工) 坪内 孝司 (63筑博工) 梅本 通孝 (08筑修環)
桐医会	山口 高史 (55筑医)	
附属校	金子 丈夫 (52教大動)	
図情橋会	森 茜 (40図短特養課)	寺沢 白雄 (63図大図情修) 大場 高志 (51図短特養課) 茂出木 理子 (60図大図情修) 柿沼 澄男 (54図短特養課)
北海道	冲野 隼夫 (41教大医)	山本 伸弘 (54筑修体) 鶴野 和憲 (07筑体)
青森	田代 高之 (52教大武)	前田 济 (59筑一自) 工藤 誠司 (09筑体)
岩手	栗林 徹 (57筑修体)	清水 茂幸 (62筑修体) 上濱 龍也 (01筑修体) 澤村 省逸 (62筑体)
宮城	蘇武 德行 (51教大武)	井上 雅勝 (53筑体) 佐々木 洋 (59筑修環)
秋田	船木 賢咲 (49教大武)	一関 智子 (60筑一自)
山形	津田 浩 (58筑一自)	井家 勝己 (06筑二人間) 原田 倫史 (17筑一自) 布施 チヨ (06筑体)
福島	鈴木 弘文 (46教大米)	伊藤 淳一 (09筑修教) 渡邊 兼綱 (14筑修教) 渡邊 幹男 (17筑修教)
茨城	郡司 丈児 (53筑一人文)	木城 知則 (13筑博歴) 川久保 典昭 (12筑修教)
栃木	田島 一利 (46教大倫)	青木 茂実 (59筑一人文)
群馬	佐藤 功 (55筑一自)	安原 英宣 (05筑一人文)
埼玉	前島 富雄 (47教大木工)	平野 正美 (54筑二比) 河原塚 努 (54筑二比) 薬師寺 将二 (10筑修教)
千葉	秋山 尚功 (38教大東史)	西川 和樹 (59筑一自) 津田 亘彦 (63筑体) 村田 孝順 (22筑二生)
学芸大	藤井 齐亮 (61筑博教3修)	中村 光一 (61筑修体) 射手 矢岬 (61筑修体) 川崎 誠司 (08筑博教)
文科省	鈴木 康志 (56筑修教)	清原 洋一 (60筑博物中退) 三橋 浩志 (02筑修教) 水谷 尚人 (06筑修教)
都庁	鯨岡 廣隆 (57筑体)	出張 吉訓 (57筑二農) 堀川 勝史 (61筑体) 青木 薫 (12筑体)
足立	田原 章孝 (51教大応数)	
荒川	井上 芳明 (01筑体)	
板橋	酒井 千春 (51教大数)	稲葉 秀哉 (55筑修教)
江戸川	奈良 隆 (53筑体)	
大田	上村 肇 (55筑一社会)	飯島 睦子 (56筑修教) 山中 悠香 (21筑一人文)
葛飾	渡邊 悟 (62筑博農)	丸井 正樹 (60筑博農) 橋場 直彦 (55筑修体)
北	村松 広英 (57筑一社会)	永野 みどり (62筑修教) 村松 広英 (57筑一社会)
江東	浦部 利明 (58筑修教)	荒川 洋 (52教大物) 熊原 誠一 (53筑体)

	代表者 (卒年科)	事務担当者
品川	鈴木 春子 (52教大國)	畝本 孝志 (59筑二生)
渋谷	竹村 恭一 (56筑一自)	塚原 直人 (63筑修教) 木島 克彦 (61筑一自)
新宿	桜井 裕 (49教大法政)	高野 一郎 (56筑一社会) 浅井 一郎 (55筑一人文) 高 莉媚 (06筑体)
杉並	斎藤 義弘 (58筑二農)	斎藤 義弘 (58筑二農) 高橋 元幸 (53院修農化) 中村 祐二 (58筑二農)
墨田	大井 俊博 (53筑体)	
世田谷	徳田 安伸 (55筑二農)	角本 芳樹 (58筑修教) 山崎 正己 (50教大武)
台東	柳 久美子 (54教大倫)	
千代田	寶槻 広 (48教大数)	
中央	中村 穎司 (35教大國)	入江 宏 (33教大倫) 塩入 睦夫 (43教大木工) 中村 穎司 (35教大國)
豊島	戸谷 賢司 (48教大倫)	戸谷 賢司 (48教大倫) 渡辺 篤 (52教大倫)
中野	谷島 昭 (51教大法政)	石井 茂光 (55筑二農) 佐々木 哲 (06筑修教)
練馬	竹内 秀一 (51教大日史)	横田 智雄 (56筑体)
文京	関根 茂 (51教大応数)	関根 茂 (51教大応数) 若井 尚子 (61筑二比)
港	及川 良一 (52教大倫)	及川 良一 (52教大倫)
目黒	高橋 基之 (53筑一自)	矢島 定章 (59筑体) 叶多 泰子 (63筑一自)
北多摩北	守屋 一幸 (52教大漢)	守屋 一幸 (52教大漢) 坂井 秀敏 (55筑修理)
北多摩南	初見 豊 (52教大農)	福田 洋一 (61筑一自)
西多摩	小林 三代次 (51教大英)	磯村 元信 (54筑体)
八王子	石川 恵一郎 (49教大健)	
町田	角田 展子 (04筑修教)	竹島 千春 (57筑一人文) 池戸 成記 (62筑体) 西村 健太郎 (22筑博シス)
神奈川	清水 進一 (43教大数)	矢野 正人 (53院修農経) 加藤 充洋 (56筑一社会) 中 弥貴 晴 (51院修農化)
山梨	根岸 洋一 (54筑修体)	芦澤 暁 (58筑二生) 落合 ひとみ (60筑一自)
長野	堀金 達郎 (52教大応数)	佐藤 充 (09筑修芸) 仁科 利明 (57筑一人文) 仲田 直史 (18筑体)
新潟	永井 成一 (41教大法政)	長田 裕 (59筑体)
富山	川腰 善一 (56筑三社工)	福島 英晴 (57筑三情) 中村 謙作 (62筑一自) 早水 康雄 (04筑修歴)
石川	久下 恭功 (49教大倫)	松本 彰 (50教大倫) 神田 康 (15筑体) 近岡 岳則 (17筑二人間)
福井	西川 讓 (51教大武)	森中 明自 (57筑芸) 牧田 誠史 (59筑修教) 木下 久仁雄 (55筑一人文)
静岡	杉本 淳光 (52教大経)	渡邊 憲章 (55筑修環) 後藤 聡一 (58筑修教) 大賀 珠実 (19筑一自)

	代表者 (卒年科)	事務担当者
愛知	鳥山 勇 (48教大数)	村松 利之 (53筑体) 羽田 透一 (01筑修教) 三矢 勝己 (59筑体)
岐阜	丹羽 章 (53教大農)	居波 裕 (60筑三情) 岩木 隆義 (60筑一自)
滋賀	町田 登 (47教大健)	松林 基之 (07筑体)
三重	丹羽 毅 (56筑一自)	向井 俊哉 (57筑体) 廣田 育男 (04筑修教) 山北 正也 (03筑一人文)
京都	塩見 均 (47教大数)	川合 英之 (56筑体) 柳 俊二郎 (13筑修体4修) 奥村 典夫 (61筑修教)
大阪	松本 秀範 (53院修理)	笹原 寿峰 (56筑芸) 中敷 久実子 (59筑芸) 大橋 一郎 (62筑体)
兵庫	溝口 繁美 (52教大倫)	林 啓太 (56筑体) 西村 達 (01筑一人文) 千脇 久美子 (03筑一自)
奈良	藤善 尚憲 (33教大教)	井上 徳之 (58筑一自) 岩佐 泰造 (13筑体) 栗本 善弘 (10筑体)
和歌山	高田 晴美 (50教大心)	米倉 憲治 (45教大倫) 川口 勝也 (01筑体) 梅本 将志 (12筑体)
鳥取	有田 博充 (41教大数)	小倉 健一 (53筑体) 山中 洋介 (58筑体) 美多 孝裕 (10筑体)
島根	松本 弘光 (46教大倫)	境 英俊 (59筑修体) 西村 寛 (01筑修体)
岡山	平田 信彦 (43教大國)	延原 良明 (57筑体) 田中 宏人 (05筑体) 近藤 真妃 (06筑体)
広島	山成 宣彦 (40教大健)	大辻 明 (47教大倫) 山下 勝也 (58筑体) 井藤 幹治 (55筑体)
山口	鍋井 邦久 (38教大倫)	兼行 剛士 (58筑修体) 内田 忠範 (57筑体) 藤井 功 (57筑体)
徳島	安永 潔 (55筑二農)	池湖 茂 (58筑二比) 森 誠一 (05筑修教) 田北 直樹 (05筑体)
香川	堀家 俊一 (51教大健)	渡邊 浩司 (03筑体)
愛媛	藤井 俊夫 (51教大応数)	山本 隆祥 (07筑体) 郷田 智成 (51教大農経) 徳森 久子 (08筑芸)
高知	下坂 速人 (53筑体)	野田 智洋 (62筑体) 山本 英作 (07筑修地) 手林 慎一 (10筑博農)
福岡	柴田 晴夫 (51教大武)	稲富 勉 (61筑体) 島居 奈緒美 (63筑体) 加藤 茂文 (05筑修体)
佐賀	野中通 兼 (53筑体)	松雪 誉 (61筑体) 井上 伸一 (01筑修体)
長崎	浦下 悦二 (50教大武)	福田 美佐子 (09筑体) 吉田 繁守 (56筑体)
熊本	蔵田 勇治 (52教大倫)	大嶋 康裕 (61筑体) 寺本 謙 (08筑体) 米田 拓二 (08筑体)
大分	鈴木 基史 (51教大武)	栗林 正一 (61筑体) 竹本 雅美 (07筑体)
宮崎	城倉 恒雄 (44教大農経)	川井田 和人 (53筑体) 児玉 洋一 (02筑三社工) 茅島 隆司 (13筑一社会)
鹿児島	篠原 良司 (52教大國)	鹿倉 貢 (57筑体) 内倉 昭文 (59筑一人文) 内寺 田晋紀 (12筑修教)

◆昭和30年卒数学科クラス会

とき 平成25年6月24日(月)

ところ 茗溪会館

10人が参加して開催されました。

今年は初参加の方が大分県からかけつけて来てくれました。

このクラス会が毎年開催できることが皆の願いです。

幹事：窪田 勝

◆昭和30年卒 文学部英語学英米文学科同期会

とき 平成25年6月29日(土)

ところ 茗溪会館

今回は出席者が急減し、僅か6名であった。私たち同期は既に全員傘寿を越えた。近況報告に、体の不調を伝える仲間が急激に増えているのがきつい。しかし出席した者は、相変わらず壮年のごとく元気、その説得力ある発言にひたすら感嘆するのみ。宣揚歌を歌い、次回を約した。 幹事：尾造保高、島岡 丘、荻野治雄(文)



◆大阪茗溪会総会 (平成25年)

とき 平成25年6月8日(土)

ところ 関西テレビ放送 8階ラウンジ

茗溪会本部から江田理事長をお迎えして、平成25年の総会を開催しました。出席者は30人。

総会では、新会長に松本秀範氏(53年・体育修士卒)新理事長に岡村多加志氏(55年・一学自然卒)の新体制を承認。

若い世代との交流をどうしていくか等活発な話し合いの後、懇親会では、懐かしい話しに盛り上がりました。

最後は、いつものように円陣で肩を組み「桐の葉」を大合唱し、来年の再会を誓いあいました。

幹事：中島・伊藤・永嶋・福本・本多

◆昭和34年・35年言語学科卒業有志の会

とき 平成25年7月3日(水)～4日(木)

ところ 東京浅草、上野、浜離宮

昭和34年言語学科卒業の家村睦夫氏を幹事団長として、東京浅草において34年・35年同学科を卒業した有志6名が集いを持った。上野・鈴木で寄席を楽しんだ後、浅草・川松別館で宴席を張り、仲見世の三河屋本店で一泊した(7/3)。文字通り50余年ぶりに顔を合わせるメンバーもいて回顧談に花が咲いた。翌日は浅草から水上バスに乗って浜離宮恩賜庭園を訪れ、来年、箱根での再会を約して散会した。 岩佐晴夫 35卒記



◆林華章学長の就任祝いの集まり

とき 平成25年8月9日(金)

ところ 台北 水源餐館

林華章学長の就任祝いで集まりました。台湾では、行政委員、国会議員、コンビニエンスストア社長などの方々が、同窓の中で活躍しています。今回は女性の国会議員も参加されました。 古藤昭子

写真は後列左から、林玫君(国立台湾師範大学学長)、朱文增(国立台湾師範大学教授)、林華章(国立台湾体育運動大学学長)、林雪卿(台湾市立大学教授 視覚芸術系)、鐘有輝(財団法人台湾美術院理事長)、陳碧涵(立法委員) 前列左から呉阿民(中華台北陸上競技協会顧問 元十種競技優勝者)、黄彬彬(元輔仁大学教授) 古藤昭子、古藤高良、呉万福(元国立台湾教育大学教授)、杜忠誥(明道大学教授 有名な書家)



追悼録 (敬称略)

逝去会員氏名・卒年科・逝去年月日・遺族住所・氏名

武井 光彦 〒305-0045 筑波大学名誉教授 24・6・14 つくば市梅園2-20-3 妻 武井 妙子	平沢 伸雄 〒963-8041 昭28教大日史 25・4・18 郡山市富田町大徳南13-8 妻 平沢 緑
高橋 健夫 〒270-0021 筑波大学名誉教授 25・7・16 松戸市小金原4-18-13 妻 高橋 邦子	豊田 博慈 〒189-0021 昭28教大物 25・1・26 東村山市諏訪町2-8-10 妻 豊田 正枝
川端 哲雄 〒910-3113 昭17研 25・8・28 福井市江上町38-18 長男 川端 喜彦	長谷川 昇 〒252-1114 昭28教大植 25・1・18 綾瀬市上土棚南3-4-4306 妻 長谷川 絹子
井上 一男 〒153-0041 昭17体一 25・7・20 目黒区駒場4-7-4 長男 井上 紘一	舛元 正数 〒359-1132 昭28教大地 23・1・13 所沢市松が丘2-25-6 長女 舛元 敦子
山田彌太郎 〒020-0004 昭18理三 24・8・1 盛岡市山岸5-15-31 妻 山田 みつ	新井 尚 〒345-0801 昭29教大数 25・3・6 南埼玉郡宮代町百間2-5-14 妻 新井よし子
高橋 甲 〒366-0825 昭18臨博 24・8・29 深谷市深谷町8-2 長男 高橋 丘	浜田 雅章 〒611-0031 昭30教大体 25・7・13 宇治市広野町尖山2-52 妻 浜田香代子
香川 稔 〒631-0033 昭19大教 25・8・19 奈良市あやめ池南1-11-30 長男 香川 和秀	安井 祥夫 〒253-0042 昭31教大数 24・5・26 茅ヶ崎市本村5-2-16 妻 安井 正子
市川 定 〒513-0032 昭19農教 24・6・22 鈴鹿市池田町1492 妻 市川 操	柴田 有康 〒164-0001 昭31教大植 25・6・15 中野区中野5-3-9 妻 柴田 佳子
尾崎 兵治 〒534-0081 昭20理一 25・4・25 富田林市甘山1-2-18 妻 尾崎 佳子	坏 満夫 〒310-0041 昭32教大地 24・8・9 水戸市上水戸4-3-7 妻 坏 恵子
宇佐見幸雄 〒132-0031 昭20体一 25・3・13 江戸川区松島3-2-8-B202 長女 石松 裕子	鍵山 松彦 〒270-0021 昭32教大地 25・1・6 松戸市小金原7-3-19 妻 鍵山 玲子
土屋 元 〒336-0926 昭20臨生 25・6・11 さいたま市緑区東浦和6-20-8 長男 土屋 元昭	安間 通人 〒251-0025 昭34教大物 25・5・2 藤沢市鶴沼石上2-12-3 妻 安間あつみ
飯田 弘忠 〒165-0033 昭21大化 25・5・14 中野区若宮2-1-7 娘 伊藤 恵子	大日方祥子 〒381-4302 昭42図短図書館 25・7・15 長野市鬼無里日影35857-1 夫 大日方聡夫
丸山 忠通 〒386-0025 昭22理二 24・11・26 上田市天神2-3-4 長女 丸山恵里子	
片桐 泰郎 〒484-0894 昭22体専 25・6・17 大山市羽黒向浦39-27-3-114 長男 片桐 泰光	
西堂 就 〒344-0115 昭23文五 24・12・14 春日部市米島801-6 妻 西堂 耀子	
竹田 功 〒470-2101 昭23理四 25・7・7 知多郡東浦町森岡下割木12-3 妻 竹田 總子	
古野 信哉 〒820-0603 昭24農教 24・12・15 嘉徳郡桂川町寿命239 妻 古野 礼子	
奈良部豊雄 〒323-0014 昭25理一 25・7・19 小山市喜沢1197-19 娘 大槻 桃子	
白川 洋一 〒194-0211 昭25理二 24・6・24 町田市相原町1809-7 妻 白川 令子	
佐藤 正 〒114-0032 昭26文三 24・4・24 北区中十条1-18-6 妻 佐藤 幸子	
田村 政男 〒142-0042 昭26理一 23・12・7 品川区豊町4-21-15 妻 田村 冴子	
上木 永生 〒241-0025 昭27大漢 25・6・30 横浜市旭区四季美台84-57 妻 上木 輝子	
北村 虎雄 〒880-0035 昭27体 25・2・10 宮崎市下北方町戸林5309 妻 北村 則子	
後藤 克也 〒171-0022 昭28大物 25・2・22 豊島区南池袋2-34-1 妻 後藤 恭子	

平成25年度筑波大学附属図書館特別展
「知の開拓者たち」
—— 筑波大学開学40+101周年記念特別展 ——

展示会
期日 平成25年10月21日(月)～11月22日(金)
開室時間 平日9時～17時、土日・祝日10時～17時
ただし、10月26日(土)・27日(日)は閉室。

場所 筑波大学中央図書館 1階 貴重書展示室
内容 筑波大学は、平成25年10月1日に開学40周年を迎えました。その前身校の歴史は、さらに14年前の師範学校の開校までさかのぼることができます。本展では、とくに昭和24年東京教育大学開学以前の前身校に焦点をあて、近代日本における学問の中心にあった知の開拓者(パイオニア)である前身校教員の業績

特別講演会
内容 「知の開拓者たち」
講師 筑波大学人文社会科学系准教授 山澤 学
期日 平成25年11月4日(月・祝) 13時30分～15時30分
場所 筑波大学中央図書館 2階 集会室
※展示会・特別講演会とも入場無料です。
※本特別展は、筑波大学開学40+101周年記念事業の一環として開催します。

問い合わせ先 筑波大学附属図書館古典資料担当
TEL 〇二九一八五三一・二三七六
URL <http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/exhibition/pioneer40/index.html>



茗溪会館写真スタジオ
ご婚礼成人式・七五三・ご入学卒業写真・証明写真
家族写真 集合写真・出張撮影等・卒業アルバム作成

株式会社 東京科学光芸社
〒112-0012 東京都文京区大塚1-5-23
TEL 03-3945-9390 FAX 03-3945-9392
茗溪会館 3階

季刊誌『茗溪』正月号に

誌上「名刺交換」掲載

ご協力をお願い

本誌次号（平成26年正月号）で新年賀詞の名刺交換広告を会員の皆さまにお願いして、掲載したいと存じます。左記の要領により、ふるってご応募下さいますようお願い申し上げます。

記

掲載方法

季刊誌『茗溪』平成26年正月号誌上
上段に「謹賀新年 平成26年 今年もよろしく
お願い致します」のタイトルを標記します。

掲載対象

茗溪会等の理事・監事・代議員、各地域・職域の代表者（会長・支部長・校長等）をはじめ、会員の皆さまにお願いします。

掲載内容

支部等であれば、組織者・代表者名を、個人であればお名前・ご住所・連絡先（電話番号・メールアドレスなど）・職名・卒業年・卒業学科・学類などから、スペースに入る範囲でお願いします。

掲載原稿の連絡方法

FAXまたはメール等で本部事務局まで

掲載協力金

1件につき10,000円をご協力下さい。

締め切り

平成25年11月22日（金）

連絡先

〒112-0012 東京都文京区大塚1-5-23

一般社団法人茗溪会事務局長 田中正造

*印刷所から校正刷りが出てまいりましたら、お送りして掲載内容をご確認いただきます。

本部だより

学生活動支援助成金を贈りました

茗溪会は、今年で9回目となる学生活動支援助成金の目録贈呈式を、7月4日に筑波大学長応接室でおこない、引続き総合交流会館で西川副理事長から各団体等の代表者（13団体1個人）に支援助成金決定通知書を手渡ししました（グラビアページ参照）。

やどかり祭に今年も支援金

学生宿舍の学生による宿舍祭「やどかり祭」は、去る5月24日（金）25日（土）に行われました。この行事に茗溪会は、今年も支援金を贈りました。

リニューアルしたホームページ

新しいホームページは、見やすい画面になっています。とくに支部のページを充実させ本部・支部のニュースを随時掲載しています。支部ニュースは本部宛どんどんお送り下さい。その都度ニュースとして書き込んでいます。

ご寄付を頂きました

昭和24年文理科大卒業生様（匿名希望）から、7月10日に5万円のご寄付を頂きました。ご意向に従って茗溪会の事業に有効に活用させていただきます。

追記

平成25年春の叙勲

瑞宝小綬章 中澤 一男 20体 専(秋田)
廣瀬 照夫 30教大(埼玉)
長澤 純 30院修数(熊本)
平成25年春の高齢者叙勲
瑞宝小綬章 飯田 一彦 20農 教(福岡)

公開講座 今年度これから

つくば地区

11月16日(土) 14時～ 筑波研修センター

「ことわざから探る英語圏の文化」

～藤原教授の英語の話 第8弾～

講師 藤原保明(筑波大学名誉教授)

編集後記

・今回は欲張って特集を3つ組みました。特集Ⅰは「筑波大学のグローバル化戦略」、特集Ⅱは「茗溪会組織の活性化を目指して」、特集Ⅲは「筑波大学と茗溪会との連携強化について」です。いずれも筑波大学や本会にとって重要な課題です。座談会や報告を是非お読み下さい。

表紙の言葉—表紙デザイン 茗溪会副理事長 西川 潔氏
〈大学植物見本園〉というバス停があるが、この写真を見て大学構内の景観とわかる人は少ない。構内北部の1の矢学生宿舍に近く、植物見本園は2.2haある。約300種の植物があつて、学生はもとより市民にも公開されている。開学前からあつた田を掘り下げて作った人工池だそうだが、40年経た池はすっかり周辺の木々と一体化している。
お詫びと訂正

前号（平成25年夏号）の名刺交換広告の渡邊（草間）悟様の電話番号に誤りがあり、FAX番号が落ちておりました。お詫びして、訂正・追記致します。

電話番号 03(3692)0211
FAX番号 03(3692)0213

平成25年10月15日発行

編集兼発行人

田中正造

発行所

一般社団法人 茗溪会

茗溪会事務局

112-0012 東京都文京区大塚1-5-23

TEL 03-3941-0136

FAX 03-3941-7674

E-mail info@meikei.or.jp

URL http://www.meikei.or.jp

郵便振替記号番号 0015-0124977

茗溪会筑波事務所

305-8577 つくば市天王台1-1

筑波大学・大学会館内

TEL 029-850-1044

FAX 029-850-1045

E-mail tsujimu@meikei.or.jp

印刷所 東京都文京区関口1-29-10

山浦印刷株式会社



日本のバウムクーヘンの歴史は
ユーハイムから始まりました。



まっすぐなおいしさ

日本で初めてバウムクーヘンが焼かれたのは1919年(大正8年)のこと。
創始者カール・ユーハイムの焼きあげたバウムクーヘンへの想いは
今も変わらず、職人から職人に受け継がれています。

www.juchheim.co.jp/juchheim
〒650-0046 神戸市中央区港島中町7-7-4

ユーハイム®

お客様係 TEL 0120-860816

受付時間：平日(月～金) 9:30～17:00(年末年始を除く)
携帯電話・PHSからはご利用いただけません。

食の提供 (アウトソーシング)

社員食堂 / 寮・研修所・保養所・研究施設 /
学生食堂 / レジャーレストラン / カフェ

お仕事に、勉強にがんばる皆様を食事面からサポートいたします。
空間づくりなども含めた委託運営を行っています。



学生食堂

～学校ブランドを高める空間づくり～

学生の皆様にとって、大切な思い出の一つになる学生食堂。
学校それぞれの教育方針に沿って運営を行いながらも、
学生層に合わせ、トレンドを意識したメニューをご用意。
カジュアルさとおいしさで好評をいただいています。
また、売店の運営やスクールバスの運行など、トータルでの
サポートも可能です。

寮・研修所・保養所・研究施設

～やすらぎと栄養バランスを考えた食事提供～

各施設の運営方針やご利用者の年齢層に応じたメニューを
提供。栄養バランスを考慮した食事を提供するだけでなく、
研修施設では研修期間や日程などの利用状況に対応した運営を
心がけ、「食」を通じて家庭にいるような安らぎを提供すること
を目指しています。食事以外にも、施設管理全般にわたる管理
業務も行っていきます。



はぐくむ、大切なことすべて

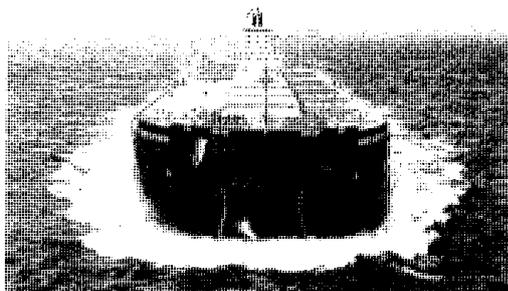
SHIDAX

シダックスフードサービス株式会社

シダックスグループ営業開発本部

〒150-0041 東京都渋谷区神南 1-12-13 渋谷シダックスビルレジ
TEL.03-5784-8853 (代表) FAX.03-5784-8842

Ships 21 Co., Ltd.
shipbrokers



外航大型貨物船・タンカー等の備船・売買の仲介
海運コンサルタント

世界中のマーケットと直結して日本のそして世界の
海運業に貢献すべく。 体力・気力があり、英語が
堪能な若い方、興味があったら来てどんな仕事か見
てみませんか。

〒105-0001 東京都港区虎ノ門5-4-10 仙石山アートハウス

TEL: 03-3438-2351 shipsuz@ships21.co.jp

代表：鈴木 進 1973年東京教育大学理学部動物学教室卒

現：筑波大学ラグビー部OB会、副会長



Service Safety Sincerity
あなたのそばに。セキショウグループ。

SEKISHO
Energy for your Life

当社は「一般財団法人 関彰育英会」を通して、筑波大学
大学院博士後期課程の院生に、研究支援として奨学金の
支給を行っております。



関彰商事株式会社

代表取締役社長 関 正樹

つくば本部 / 茨城県つくば市二の宮 1-23-6 TEL 029-860-5151

茗溪会担当：執行役員総務部長 岡本 俊一
(昭和56年 第一学群社会学類卒業)

<http://www.sekisho.co.jp/>

新刊案内

2013年
9月10日刊行



感性認知脳科学への招待

筑波大学感性認知脳科学研究プロジェクト/編
 A5判・並製/214頁/2,800円+税 ISBN978-4-904074-28-2 C1011

「感性って何?」「ここはどこにあるの?」。誰もが抱くこうした疑問を解明するために、心理学、医学、障害科学、そして芸術学の研究者が集結して、学際融合的な研究分野「感性認知脳科学」が生まれた。

本書では、感性認知脳科学において、これまでに進められてきた研究と教育の活動を、基礎から応用にわたって平易に解説する。

【主な目次】

まえがき/感性認知脳科学とは/感性認知脳科学の方法論/感じる脳/創造する脳/成長する脳/行動する脳/索引

◆2013年10月1日刊行◆ 筑波大学新聞で読む筑波大学の40年

福原直樹・伊藤純郎/編著
 A4判変形・並製/230頁/1,800円+税 ISBN978-4-904074-29-9 C0036

<p>一般社団法人 食医同源之会 〒124-0024 東京都葛飾区新小岩1-43-6 オリムピアビル6F TEL&FAX 03-3654-2410 理事 渡邊 悟 (56筑二農・62筑院博農) http://syokuidougen.main.jp</p>	<p>堀内法律事務所 〒305-0025 つくば市花室1011番地 TEL 029(857)4411 FAX 029(857)4412 所長・弁護士 堀内 昭三 (35教大法政)</p>	<p>相続・会社等設立・著作権 etc... 行政書士 高谷真一事務所 〒300-0826 土浦市小松ヶ丘町3番15号 TEL&FAX 029-821-8177 代表 高谷 真一 (平20筑修ビジ)</p>
<p>海城中学・高等学校 〒169-0072 東京都新宿区大久保3-6-1 電話 03-3209-5880 校長 水谷 弘 (昭40教大数)</p>	<p>学校法人国際学園 星槎大学 共生科学部 〒227-0053 横浜市青葉区さつきが丘8-80 電話 045-979-0261(代) アドバイザー 本木 幹雄 (50教大体) http://www.seisa.ac.jp</p>	<p>聖徳大学 文学部 〒271-8555 千葉県松戸市岩瀬550 電話 047-365-1111(代表) E-mail: akifuji@seitoku.ac.jp 学部長 藤原 保明 (昭48教修英 平3筑博文言)</p>
<p>経営の本質を学び実践する者が集う研鑽の場 経営に心と道を ●業界や世代を超えた異業種交流研修 ●フォーラム終了後の生進ネットワーク 3,000名以上の修了生から400名以上の社長を輩出 KAE 山城経営研究所 山城経営研究所 検索</p>	<p>株式会社 十和観光 JUWA 代表取締役 井坂信洋 URL http://www.juwa.com E-mail travel@juwa.com 〒300-2451 茨城県つくばみらい市英輪254 TEL 0297(52)1221 FAX 0297(52)1220</p>	<p>SPORTS COMPANY 株式会社 スポーツカンパニー 〒130-0026 東京都墨田区両国1-16-7 朋林ビル6F TEL 03-3635-4711 http://sportscompany.co.jp 取締役 藤田 文武 (筑波大体育 2004卒)</p>
<p>永井建設株式会社 〒273-0115 千葉県鎌ケ谷市東道野辺3-1-7 電話 047(443)7908 FAX 047(443)7940 営業部長 高野 力 (昭48教大木工)</p>	<p>印刷・製本までトータルに対応 株式会社 ケエスアイ 本社営業部 〒557-0063 大阪市西成区南津守7-15-16 ☎06-6652-8888 ☎06-6652-8484</p>	<p>株式会社 長谷工 コーポレーション 〒105-8507 東京都港区芝2丁目32番1号 電話 03(3456)1578 執行役員 植岡 祥之 (昭57筑社工)</p>

筑波での宿泊・研修に

ご家族で、お仲間で 最大収容180名、お一人3,600円から/茗溪会員とご家族に割引あり
 研修セミナー・サークル発表会・各種会議・学習合宿・部活動合宿に
 シングル145室 ツイン5室 和室5室/研修室2室 (120・40名)
 和室も研修室として利用可 (20畳、10畳)
 館内食堂《こうせい》でパーティ・懇親会等 (数名から80名まで)

アクセス 秋葉原駅からつくばエクスプレスで45分「つくば駅」下車
 ●バス/「筑波大学循環」3つ目「筑波メディカルセンター前」下車
 徒歩8分 ●つくば駅からタクシー/5分

一般財団法人 筑波学都資金財団

筑波研修センター

〒305-0005 茨城県つくば市天久保1-13-5
 TEL 029-851-5152 / FAX 029-851-8886

<http://www.meikei.or.jp/~center> e-mail:center@meikei.or.jp



結婚のすすめ IV

「雷が落ちた。」

私の上に。」

歓談当日。

遅れて入ってきた彼を見た瞬間。

私に雷が落ちた。

とても自分には…と

落ち込みそうになる気持ちを抑えて、

歓談ははじまった。

次から次へと途切れずに続く会話。

とにかく楽しい、素直に感じた



ご婚約ストーリー「恋愛以上」をプレゼント

幸せにゴールインされたご婚約カップルが
届けてくださる実際のエピソード。8編の小冊子。
日本の心優しい文化を受け継ぐ、真実の物語です。

結婚を誠実にお考えの方、ご両親さまにお送ります。

お電話でお申込みください。
(首都圏の方のお問合わせ)

☎ **0120-0333-82**

キューピッドの信頼性はユーザーの直接の言葉で。

愛・ボード

検索

ご婚約・ご結婚カップル、ご両親の直接の声。毎週更新しているリアル情報です。



慶應義塾大学OB間の親睦パーティから発足33年。入会資格と首都圏限定のメンバー制で、きめ細かくご紹介します。

「結婚のすすめI・II・III」は、
ホームページにて掲載中です。

■入会資格

結婚を誠実にお考えの独身の方

●男性 25～45歳、定職におつきの方。●女性 20～40歳

※首都圏在住。※入会に際して審査があります。

〒104-0061 東京都中央区銀座4-2-11

ヒューリック銀座数寄屋橋ビル7F 電話 03-5524-3555

公式ホームページ www.cupid.co.jp



30th

新しい銀座、新たな場所で

Cupid Club



茗溪会館

☆御 婚 礼

ご披露宴割引

茗溪会々員	10%
会員ご家族	5%

☆ご 会 合(祝賀会・ご法宴・研修会など)

・ビュッフェスタイル
・フランス・中華各コース料理

ご会合のことなら おまかせ下さい。

☆グ リ ル(お食事・喫茶)

(株) 茗 溪 サ ー ビ ス

〒112-0012 東京都文京区大塚1-5-23
☎ 03-3943-0321
FAX 03-3943-0815
東京メトロ丸ノ内線 茗荷谷駅下車徒歩2分



桜美林大学

J. F. Oberlin University

リベラルアーツ学群 / 健康福祉学群
ビジネスマネジメント学群 / 総合文化学群

桜美林学園 理事長・学園長 佐藤 東洋士
入試広報センター相談役 川田 孝一 (昭39 教大総農)

【お問合せ先】
〒194-0294 東京都町田市常盤町 3758
桜美林大学インフォメーションセンター
Tel.042-797-1583 E-mail:info-ctr@obirin.ac.jp



指導と評価の一体化, 学習評価の妥当性・信頼性を保証する新「評価規準表」

平成24年版

観点別学習状況の

評価規準と判定基準

中学校 教科別全9巻

監 修 北尾 倫彦 : 大阪教育大学名誉教授

全体編集 山森 光陽 : 国立教育政策研究所主任研究官

鈴木 秀幸 : 静岡県立袋井高等学校教諭・学習評価の在り方に関するWG専門委員

全9巻●定価 24,150円

教科別単品 定価 2,520～2,730円

- 単元ごとの評価規準と判定基準
- 指導案作成のための単元・題材の指導と評価計画例
- 評価事例で示す, 難しい「思考・判断・表現」の観点の評価

全巻に国立教育政策研究所作成の「評価規準に盛り込むべき事項等」の参考資料付き

2011年刊行

国語 金子 守 (武蔵野大学教授)
社会 館 潤二 (筑波大学附属中学校副校長)
算数 永田潤一郎 (前文部科学省教科調査官)
理科 金子丈夫 (筑波大学附属中学校教諭)
外国語 松浦伸和 (広島大学教授)

2012年刊行

音楽 大熊信彦 (文部科学省教科調査官)
伊野義博 (新潟大学教授)
美術 小泉 薫 (お茶の水女子大学附属中学校教諭)
技術・家庭 安東茂樹 (京都教育大学副学長)
保健体育 佐藤 豊 (鹿屋体育大学教授)
森 良一 (文部科学省教科調査官)

小学校編も好評発売中

全9教科セット価 19,950円 教科別 定価 各1,680～2,520円

〒112-0012 東京都文京区大塚1-4-15
<http://www.toshobunka.co.jp/>

図書文化

TEL. 03-3943-2511 FAX. 03-3943-2519
※定価は税5%を含みます。

茗溪学園中学校高等学校

茗溪学園は1979年に茗溪会の百周年記念事業で生まれた学校です

理事長 西野虎之介 (28農経)
校長 柴田 淳 (52体 56院修体)

〒305-8502 つくば市稲荷前1-1
<http://www.meikei.ac.jp> TEL 029(851)6611

- ◆寮のある学校です
- ◆Study Skillsを評価し伸ばす学校です
- ◆海外大学進学も選択肢にできます
- ◆部活動が盛んな文武両道の学校です

平成26年度茗溪学園入学試験日程

12月22日(日) 中学推薦入試
海外枠入試(中学・高校)
1月 9日(木) 高校推薦入試
1月12日(日) 中学一般入試第1回
1月26日(日) 中学一般入試第2回
高校一般入試
2月 6日(木) 中学一般入試第3回



アクセス つくばエクスプレスTX つくば駅A3A4出口 バスターミナル4番のりば「ひたち野うしく行」バス、
「環境研究所」下車徒歩5分 または JRひたち野うしく駅 東口バス乗り場「つくばセンター行」
e-mail kouhou@meikei.ac.jp (見学等) entry@meikei.ac.jp (入試等)